
小城市 子育て支援に関するアンケート調査
小城市 子どもの生活アンケート
小城市 こども計画(仮称)策定に関する調査(若者)

報告書【概要版】

令和6年9月

目 次

1. 調査の概要	1
2. 本報告書【概要版】の構成	2
3. 結果の概要	3
こどもが権利の主体であること	3
多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり	6
切れ目のない保健・医療の提供	8
こどもの貧困の解消に向けた対策	12
児童虐待防止・ヤングケアラーへの支援	16
子どもの自己肯定感・悩みの相談	21
子育てや教育に関する経済的負担の軽減	25
地域子育て支援、家庭教育支援	28
母親の就労、共育での推進、子育て支援、求められる事業・施設	32
若者（青年期）への支援	36
少子化問題に対する若者の考え	40

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

子どもの生活状況や、家庭の状況、市の教育・保育サービス等の利用状況や今後の利用希望などをうかがい、子どもや若者の支援に役立てるとともに、今後のこども・若者支援、子育て支援に関する施策を検討するための基礎資料として実施した。

(2) 調査対象

①子育て支援に関するアンケート調査

就学前児童の保護者／小学生児童の保護者（各 1,000 名を無作為抽出）

②子どもの生活アンケート

市内小学 5 年生の保護者と児童／市内中学 2 年生の保護者と生徒(全数)

③こども計画(仮称)策定に関する調査(若者)

15 歳～39 歳(令和 6 年 4 月 1 日時点)の方(住民基本台帳から 1,000 名無作為抽出)

(3) 調査期間及び調査方法

①令和6年3月1日～3月19日

学校及び園を通じて配付、学校及び園を通じての回収と郵送回収の併用

②令和6年3月1日～3月19日

保護者:学校を通じて配付、回収 児童・生徒:学校で配付、記入、回収

③令和 6 年6月 21 日～7 月 21 日

郵送配付／郵送回収及び WEB 回答

(4) 配付・回収状況

①子育て支援に関するアンケート調査

	配付数	回収数	回収率
就学前児童(0 歳～5 歳)の保護者	1,000 票	630 票	63.0%
小学生児童(1 年～6 年)の保護者	1,000 票	680 票	68.0%

②子どもの生活アンケート

	配付数	有効回収数	有効回収率
小学 5 年生の保護者	429 票	349 票	81.4%
中学 2 年生の保護者	423 票	335 票	79.2%
小学 5 年生の児童	429 票	412 票	96.0%
中学 2 年生の生徒	423 票	373 票	88.2%

③こども計画(仮称)策定に関する調査(若者)

	配付数	有効回答数	有効回収率
15 歳～39 歳の市民	1,000 票	209 票	20.9%

(5) 子どもの生活アンケートにおける経済的な状況の分類

子どもの生活アンケートの保護者票では「世帯全体のおおよその年間収入(税込)」の設問(問19)と、「生計を同一にしている家族の人数」の設問(問2)を設けている。2つの回答から、等価世帯収入の中央値を求め、報告書では「中央値の2分の1未満」に属する家庭を「A層」、「中央値以上」及び「中央値の2分の1以上中央値未満」に属する家庭を「B層」と表記し、経済的な状況別としてクロス集計を行っている。

詳細は報告書本編p87

2. 本報告書【概要版】の構成

次期計画「小城市こども計画」は、国の「こども大綱」を勘案して策定する予定であることから、本報告書では調査全体を合わせて、同大綱の「第3 こども施策に関する重要事項」から、主に「1 ライフステージを通じた重要事項」「2 ライフステージ別の重要事項(うち青年期)」及び「3 子育て当事者への支援に関する重要事項」の内容を参考に構成している。

【参考】

こども大綱 第3 こども施策に関する重要事項 (抜粋)

1 ライフステージを通じた重要事項

- (1) こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等
- (2) 多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり
- (3) こどもや若者への切れ目のない保健・医療の提供
- (4) こどもの貧困の解消に向けた対策の推進
- (5) 障害児支援・医療的ケア児等への支援
- (6) 児童虐待防止対策と社会的養護の推進及びヤングケアラーへの支援
- (7) こども・若者の自殺対策、犯罪などからこども・若者を守る取組

2 ライフステージ別の重要事項

- (3) 青年期

3 子育て当事者への支援に関する重要事項

- (1) 子育てや教育に関する経済的負担の軽減
- (2) 地域子育て支援、家庭教育支援
- (3) 共働き・共育での推進、男性の家事・子育てへの主体的な参画促進・拡大
- (4) ひとり親家庭への支援

(こども大綱 令和5年12月22日閣議決定より)

以下、報告書内において調査名は次のように表記している。

就学前児童(0歳～5歳)の保護者:【就学前保護者】

小学生児童(1年～6年)の保護者:【小学生保護者】

小学5年生・中学2年生保護者:【小5中2保護者】

小学5年生・中学2年生:【小5】【中2】

15歳～39歳の市民:【若者】

3. 結果の概要

こどもが権利の主体であること

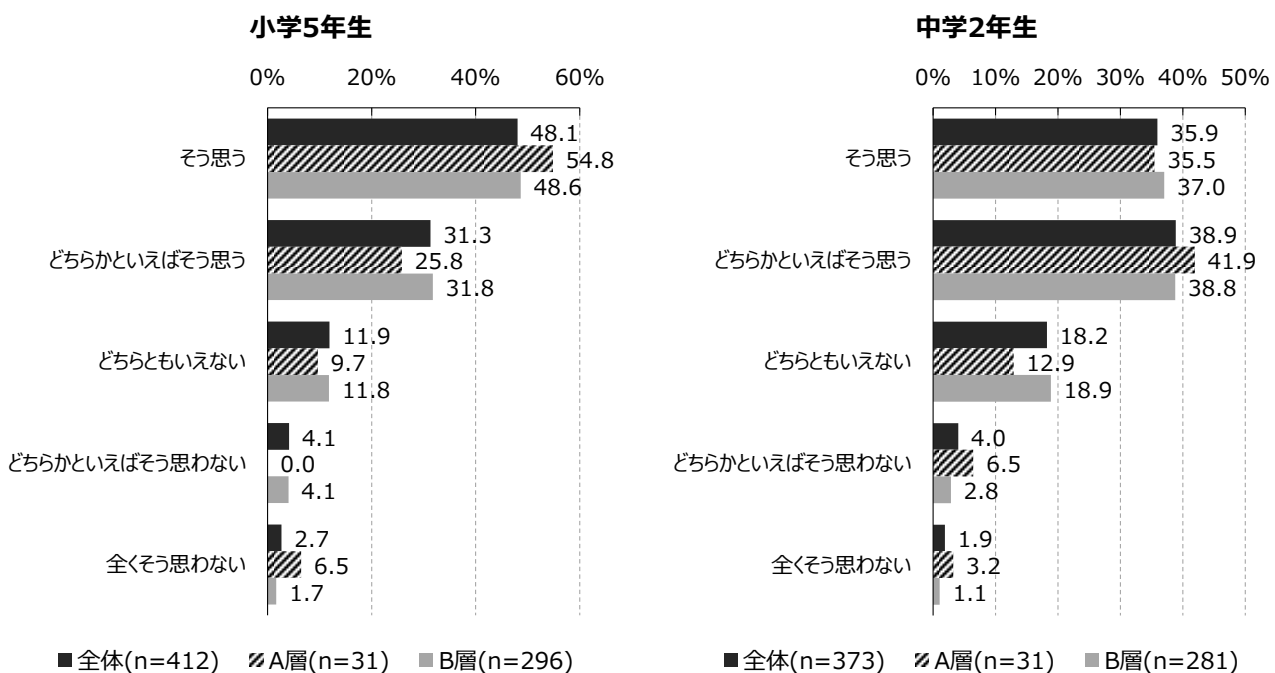
意見や考えが、大人にきちんと聞いてもらえていると思うか

【小5】【中2】

問 18 自分の意見や考えは、まわりの大人の人にきちんと聞いてもらえていると思いますか。

小学5年生では「そう思う」が48.1%と最も多く、「どちらかといえばそう思う」が31.3%、「どちらともいえない」が11.9%。

中学2年生では「どちらかといえばそう思う」が38.9%と最も多く、「そう思う」が35.9%、「どちらともいえない」が18.2%。



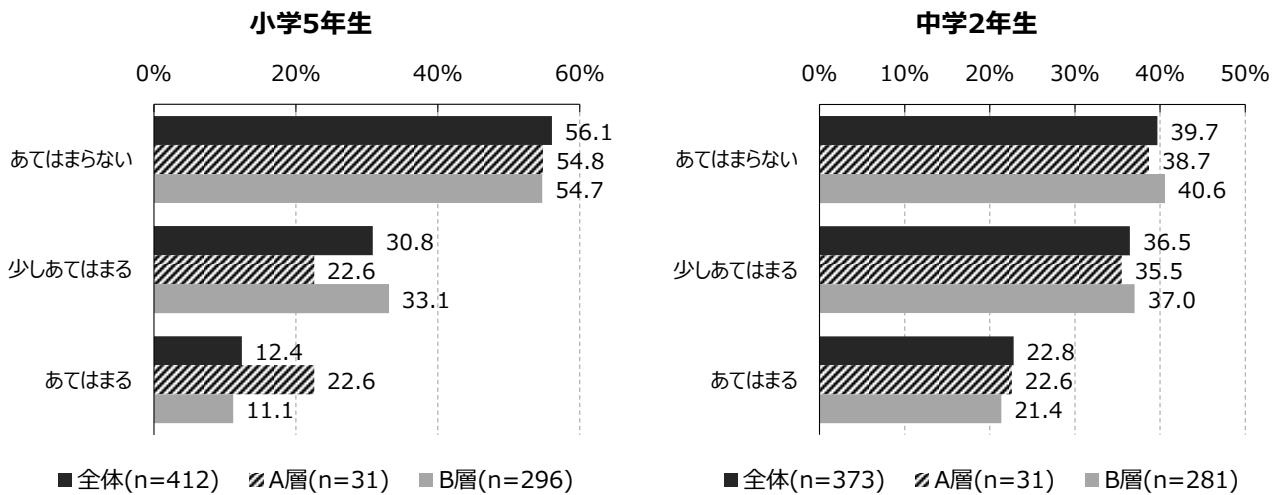
- 小学5年生では「そう思う」が最多だが、中学2年生では僅差ながら「どちらかといえばそう思う」が最多となる。
- 「どちらともいえない」は、自分の意見や考えに対する大人の反応がその時々で異なるという感触を子どもが持っていることの表れとも考えられる。「どちらともいえない」は小学5年生で11.9%、中学2年生で18.2%となっており、年齢が上がると、大人の態度が一定していないと感じることが多くなっている可能性も考えられる。

問 20 次の質問について、「あてはまらない」「少しあてはまる」「あてはまる」から回答してください。あなたのここ半年くらいのことを考えて教えてください。

e) 心配ごとが多く、いつも不安だ。

小学5年生では「あてはまらない」が56.1%と最も多く、「少しあてはまる」が30.8%、「あてはまる」が12.4%。

中学2年生では「あてはまらない」が39.7%と最も多く、「少しあてはまる」が36.5%、「あてはまる」が22.8%。



- 「少しあてはまる」も、「あてはまる」も、小学5年生より中学2年生で割合が高く、年齢が上がると、心配ごと、不安感が大きくなっていく傾向がうかがえる。
- 小学5年生の「あてはまる」ではA層が全体よりも10.2ポイント多い。

何でも相談できる場所の利用意向

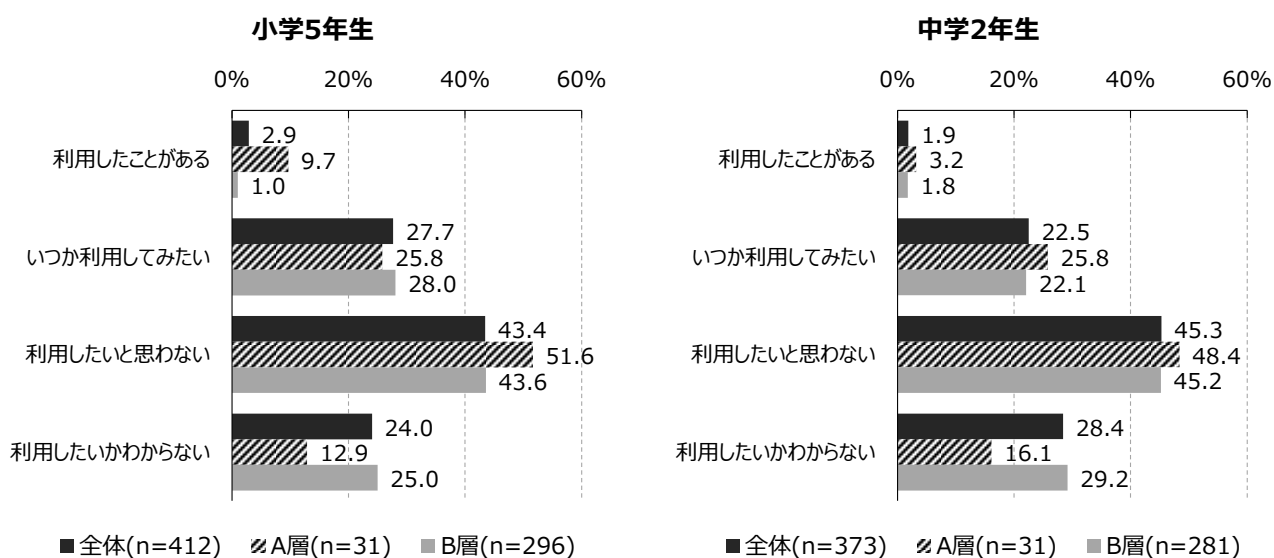
【小5】【中2】

問 21 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか（自分や友だちの家、学校はふくみません）。また、利用したことがない場合、いつか利用したいと思いますか。

d) 何でも相談できる場所（電話やネット相談をふくむ）

小学 5 年生では「利用したいと思わない」が 43.4%と最も多く、「いつか利用してみたい」が 27.7%、「利用したいかわからない」が 24.0%。

中学 2 年生では「利用したいと思わない」が 45.3%と最も多く、「利用したいかわからない」が 28.4%、「いつか利用してみたい」が 22.5%。



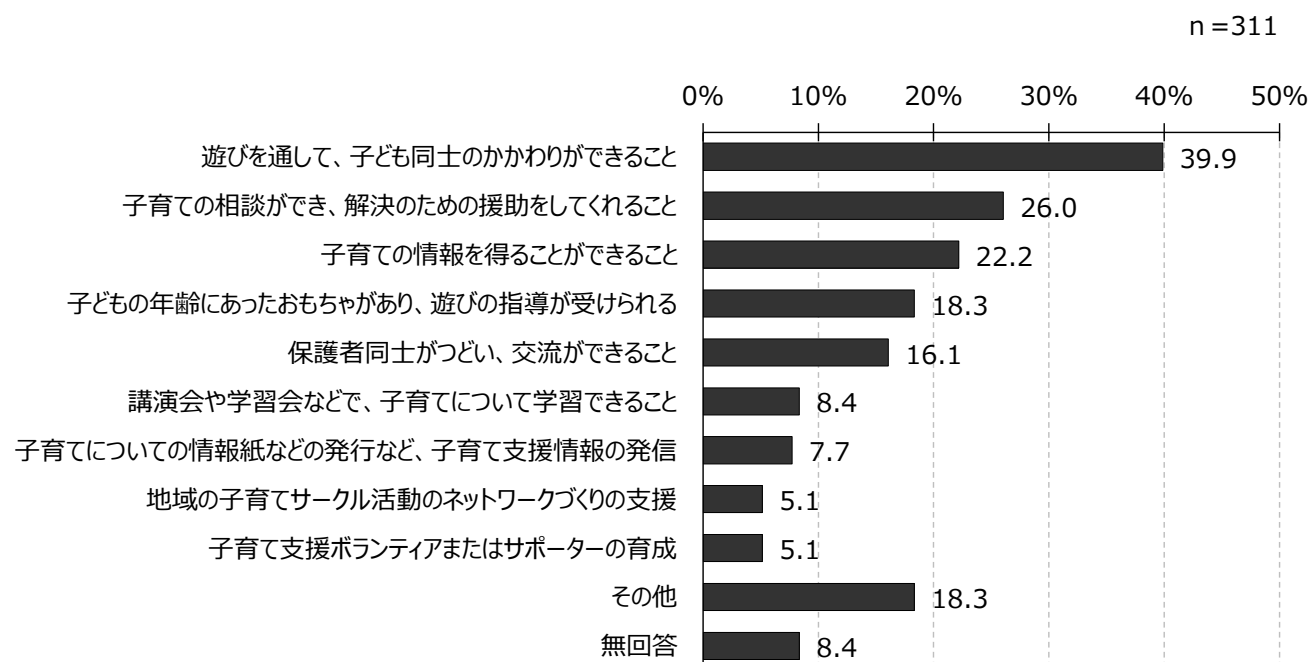
- 「利用したいかわからない」が、小学 5 年生では 24.0%、中学 2 年生では 28.4%。「何でも相談できる場所」というものがどういったところなのか、子どもたちには具体的イメージができていないことも考えられる。

児童センター（ゆうゆう）に求めるもの

【小学生保護者】

問 16-1 児童センター（ゆうゆう）にどんなサービスがあれば利用したと思いますか。
（複数回答）

「遊びを通して、子ども同士のかかわりができること」が 39.9%と最も多く、「子育ての相談ができ、解決のための援助をしてくれること」が 26.0%、「子育ての情報を得ることができること」が 22.2%、「子どもの年齢にあったおもちゃがあり、遊びの指導が受けられる」「その他」が 18.3%。



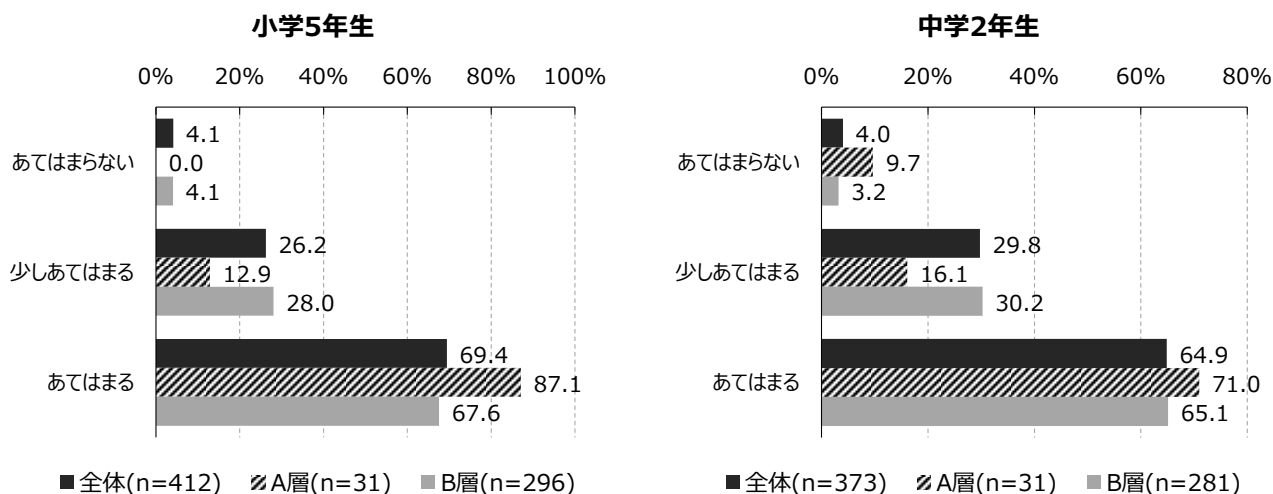
- 本設問は、保護者が児童センター（ゆうゆう）に求めるもの、複数回答である。第 2 位「子育ての相談ができ、解決のための援助をしてくれること」、第 3 位「子育ての情報を得ることができること」は、保護者に提供されるものだが、第 1 位「遊びを通して、子ども同士のかかわりができること」、第 4 位「子どもの年齢にあったおもちゃがあり、遊びの指導が受けられる」は、センター利用を通じての子ども自身の体験の広がり期待するものとなっている。

問 20 次の質問について、「あてはまらない」「少しあてはまる」「あてはまる」から回答してください。あなたのここ半年くらいのことを考えて教えてください。

k) 年下の子どもたちにたいして、やさしくしている。

小学5年生では「あてはまる」が69.4%と最も多く、「少しあてはまる」が26.2%、「あてはまらない」が4.1%。

中学2年生では「あてはまる」が64.9%と最も多く、「少しあてはまる」が29.8%、「あてはまらない」が4.0%。



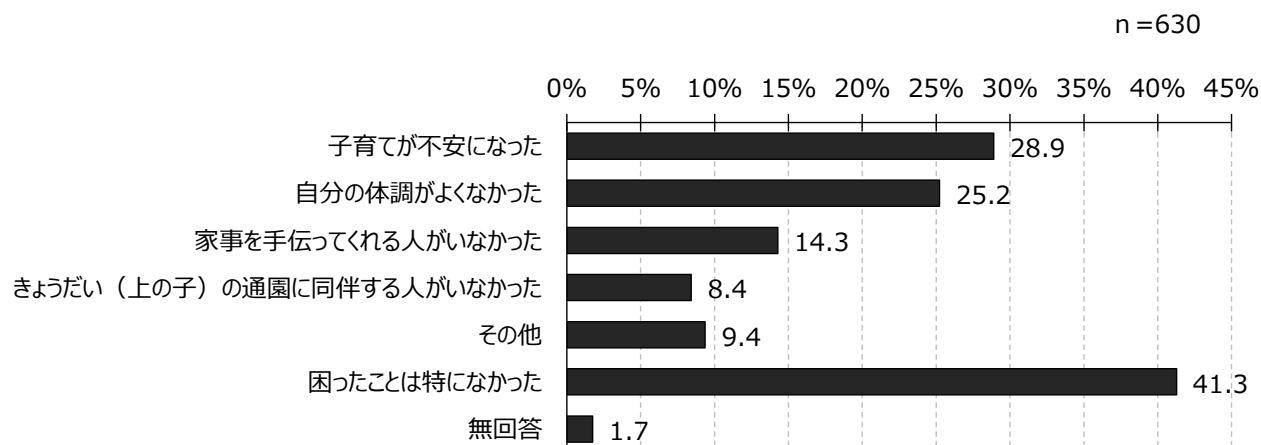
- 小学5年生、中学2年生ともに「あてはまる」が最多となっている。同学年・同年齢だけではない子ども同士の接点や交流の機会が少なくはないと推察できるが、厳密には「年下の子どもたち」が、自身の弟や妹のことである可能性もある。
- きょうだいであっても、地域の子どもであっても、自分より年下の子どもにやさしくできるということは、思春期・青年期～という将来に、「支えられていた子ども側」から「支える大人側」へ成長するための大切な要素と考えられる。

出産後に困ったこと

【就学前保護者】

問 21 お子さんを出産した後で、困ったことはありましたか。（複数回答）

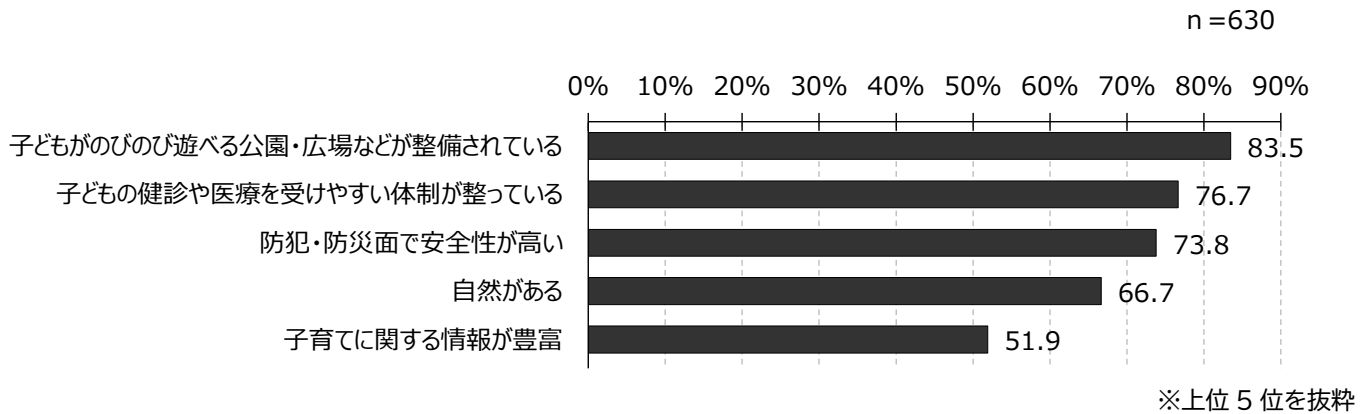
「困ったことは特になかった」が 41.3%と最も多く、「子育てが不安になった」が 28.9%、「自分の体調がよくなかった」が 25.2%、「家事を手伝ってくれる人がいなかった」が 14.3%、「その他」が 9.4%。



- 「子育てが不安になった」が 28.9%、「自分の体調がよくなかった」が 25.2%。いずれも、産後ケアの重要性をうかがわせる回答となっている。

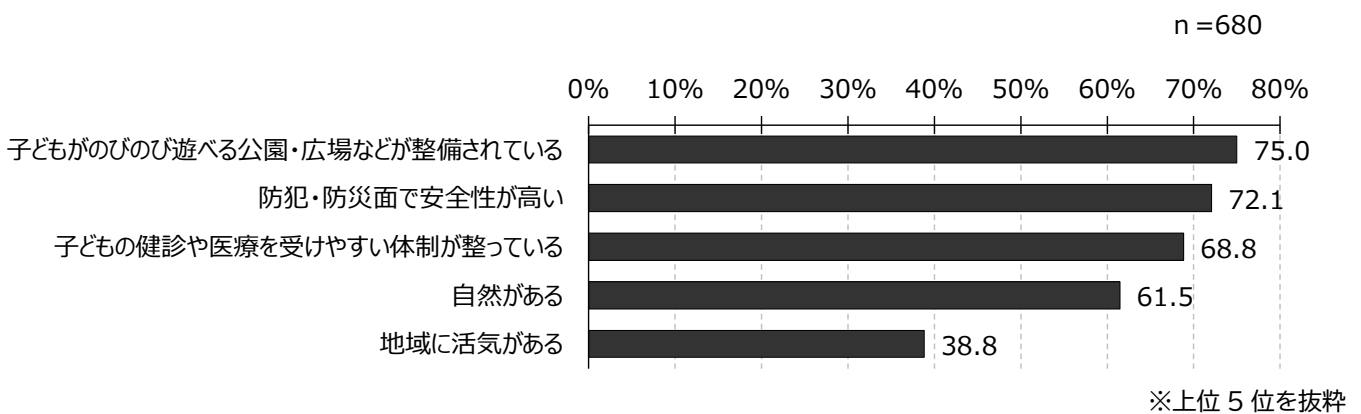
問 26 あなたが、子育てのために重視したい環境、子育てしやすくするために必要と考える環境は何ですか。（複数回答）

「子どもがのびのび遊べる公園・広場などが整備されている」が 83.5%と最も多く、「子どもの健診や医療を受けやすい体制が整っている」が 76.7%、「防犯・防災面で安全性が高い」が 73.8%、「自然がある」が 66.7%、「子育てに関する情報が豊富」が 51.9%。



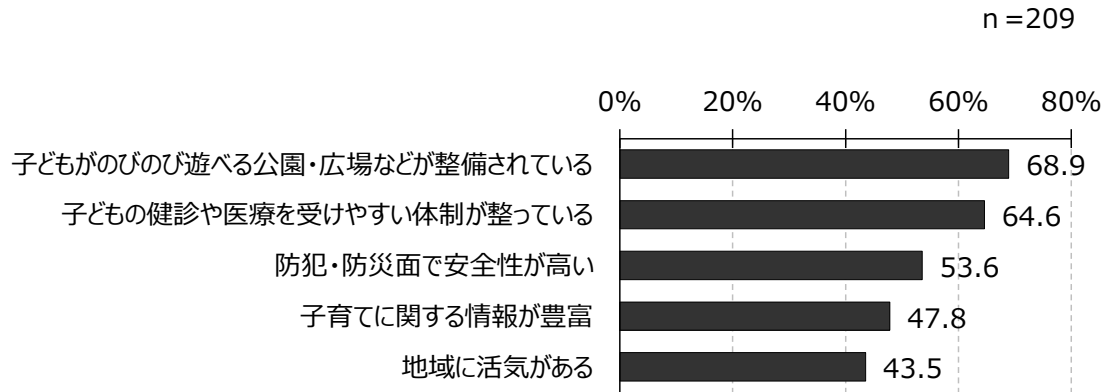
問 21 あなたが、子育てのために重視したい環境、子育てしやすくするために必要と考える環境は何ですか。（複数回答）

「子どもがのびのび遊べる公園・広場などが整備されている」が 75.0%と最も多く、「防犯・防災面で安全性が高い」が 72.1%、「子どもの健診や医療を受けやすい体制が整っている」が 68.8%、「自然がある」が 61.5%、「地域に活気がある」が 38.8%。



問 28 あなたは、小城市が子どもや子育てにやさしい社会となるために何が重要だと思いますか。
(複数回答)

「子どもがのびのび遊べる公園・広場などが整備されている」が 68.9%と最も多く、「子どもの健診や医療を受けやすい体制が整っている」が 64.6%、「防犯・防災面で安全性が高い」が 53.6%、「子育てに関する情報が豊富」が 47.8%、「地域に活気がある」が 43.5%。

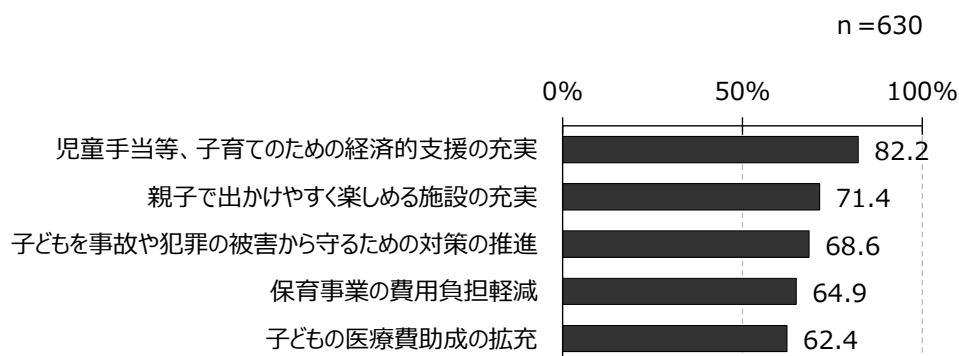


※上位 5 位を抜粋

- 就学前保護者、小学生保護者、若者のいずれでも、14 の選択肢のうち上位 3 位以内に「子どもの健診や医療を受けやすい体制が整っている」があげられている。
- 「子どもの健診や医療を受けやすい体制が整っている」の割合は、小学生保護者(68.8%)より就学前保護者(76.7%)の方が高い。また、必ずしも現在子育て当事者にあたるとは限らない若者においても 64.6%となっている。

問 28 子どもを健やかに育てるために、市にどのようなことを期待しますか。（複数回答）

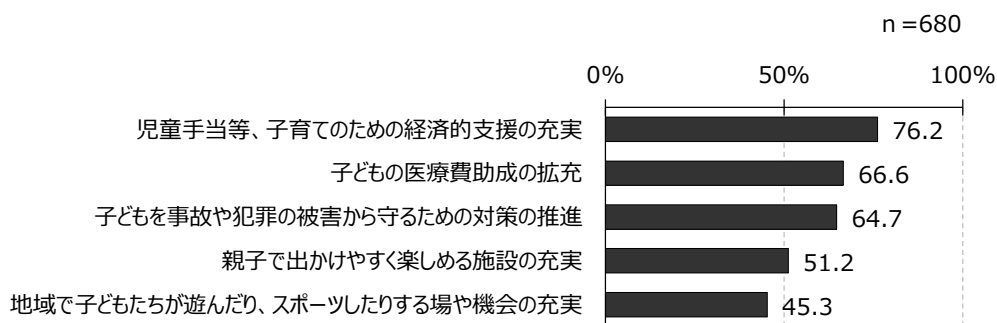
「児童手当等、子育てのための経済的支援の充実」が 82.2%と最も多く、「親子で出かけやすく楽しめる施設の充実」が 71.4%、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が 68.6%、「保育事業の費用負担軽減」が 64.9%、「子どもの医療費助成の拡充」が 62.4%。



※上位 5 位を抜粋

問 23 子どもを健やかに育てるために、市にどのようなことを期待しますか。（複数回答）

「児童手当等、子育てのための経済的支援の充実」が 76.2%と最も多く、「子どもの医療費助成の拡充」が 66.6%、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が 64.7%。

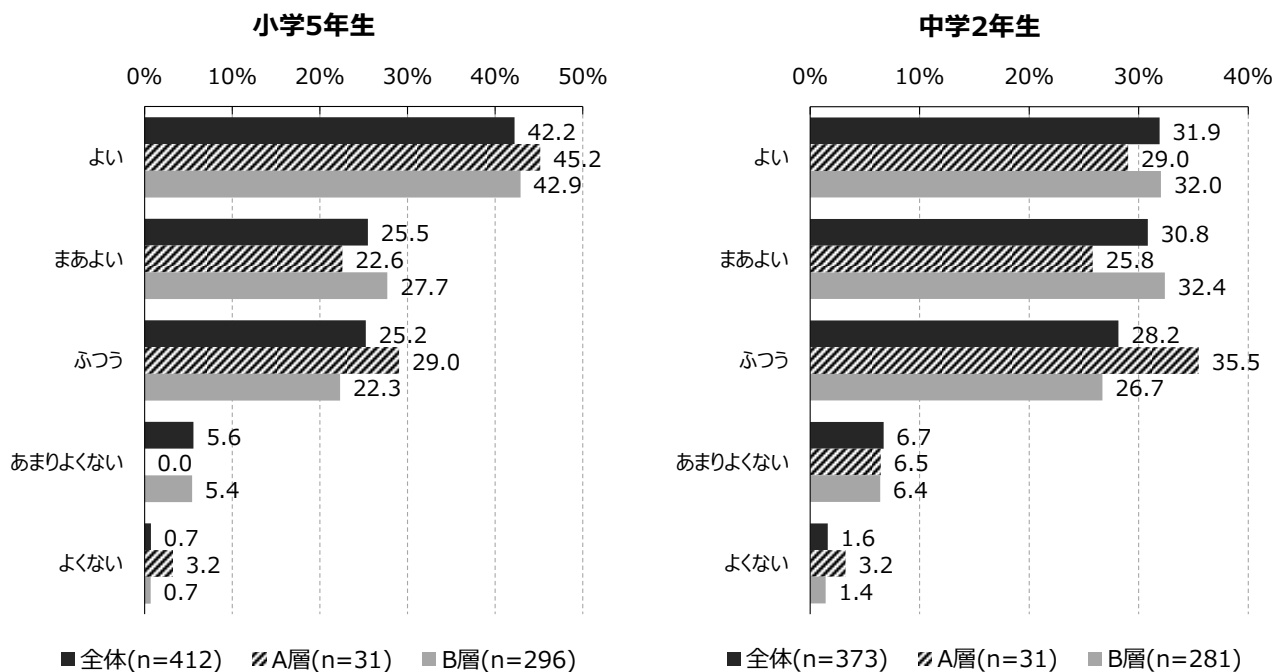


※上位 5 位を抜粋

- 就学前保護者、小学生保護者のいずれでも、20 の選択肢のうち上位 5 位以内に「子どもの医療費助成の拡充」があげられている。医療費の助成は医療の提供体制とは異なる問題であるが、小児医療が受けやすくなるとよい、という要望の一環とも捉えられる。

問 15 あなたの健康状態について教えてください。

小学5年生では「よい」が42.2%と最も多く、「まあよい」が25.5%、「ふつう」が25.2%。
 中学2年生では「よい」が31.9%と最も多く、「まあよい」が30.8%、「ふつう」が28.2%。

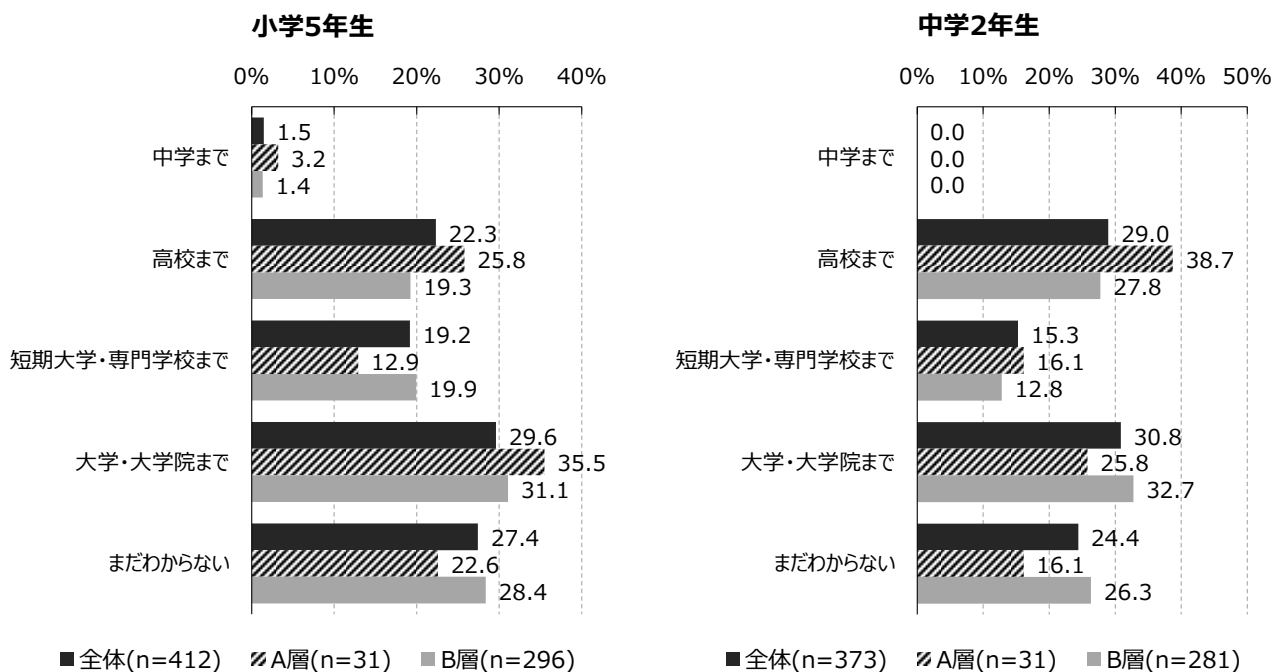


- 「よい」～「あまりよくない」では、経済的な状況との明らかな相関関係がみられない。「よくない」では、A層が全体・B層より多くなっている。

問9 あなたは、しょうらい、どの学校まで進学したいですか。

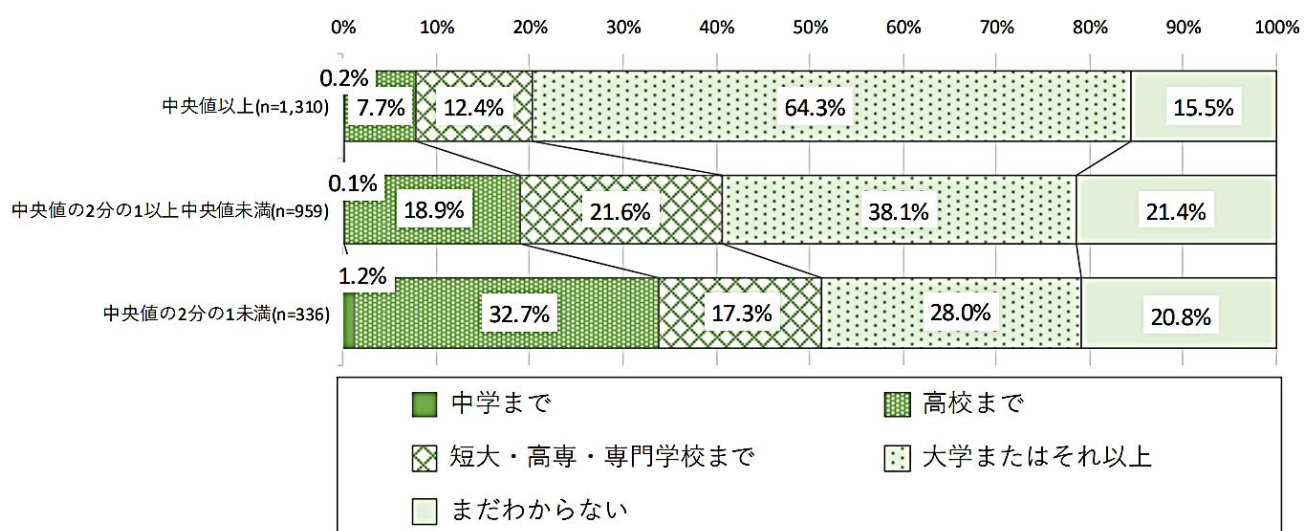
小学5年生では「大学・大学院まで」が29.6%と最も多く、「まだわからない」が27.4%、「高校まで」が22.3%。

中学2年生では「大学・大学院まで」が30.8%と最も多く、「高校まで」が29.0%、「まだわからない」が24.4%。



- 「高校まで」は、小学5年生、中学2年生ともA層が全体より多くなっている。令和3年の全国調査(中学生)と似た傾向となっている。

【参考】進学したいと思う教育段階（中学生）

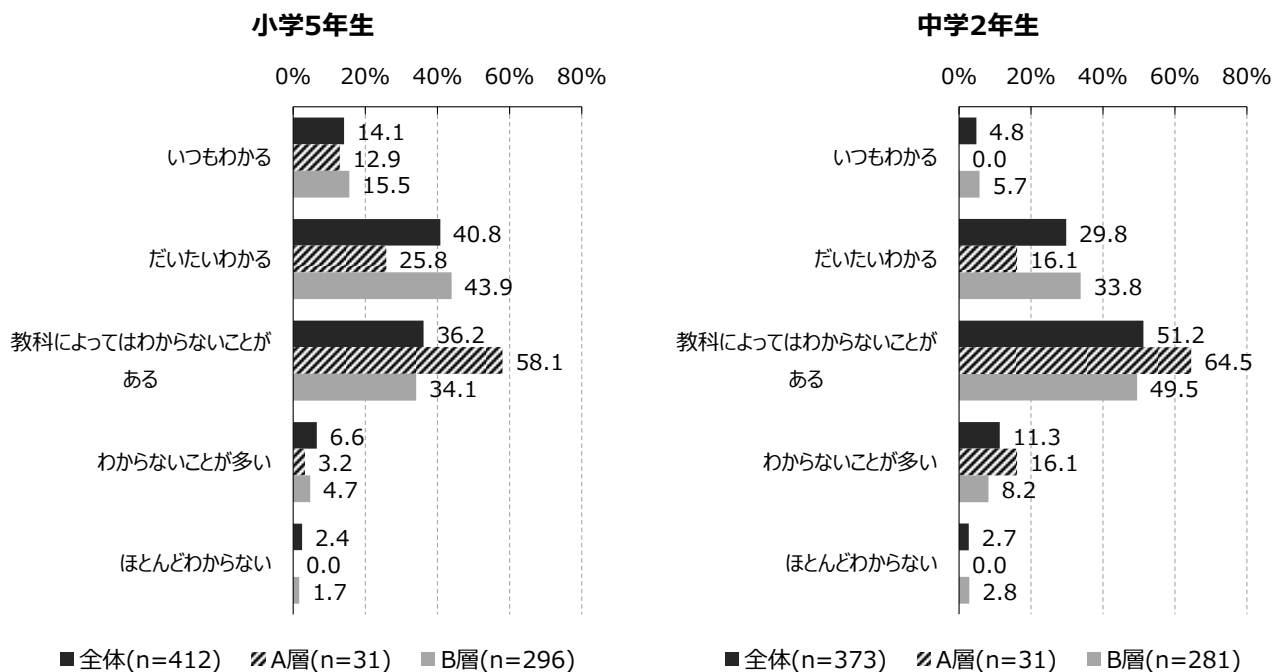


(令和3年 子供の生活状況調査 内閣府)

問7 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。

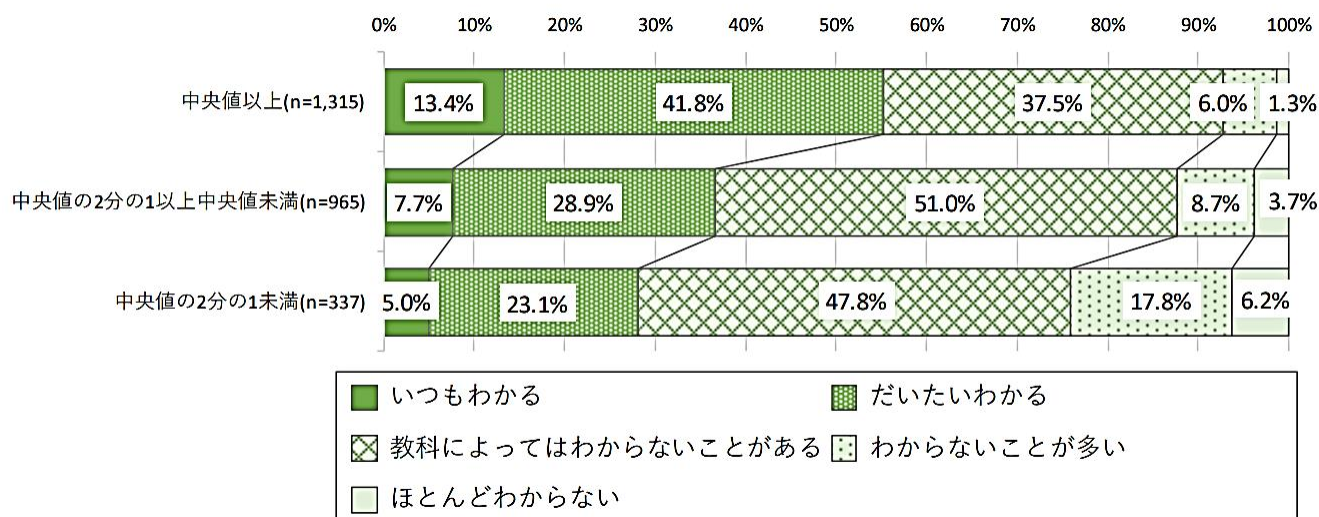
小学5年生では「だいたいわかる」が40.8%と最も多く、「教科によってはわからないことがある」が36.2%、「いつもわかる」が14.1%。

中学2年生では「教科によってはわからないことがある」が51.2%と最も多く、「だいたいわかる」が29.8%、「わからないことが多い」が11.3%。



- 「いつもわかる」「だいたいわかる」は、小学5年生、中学2年生ともA層が全体より少なく、「教科によってはわからないことがある」は小学5年生、中学2年生ともA層が全体より多い。令和3年の全国調査(中学生)では「わからないことが多い」で経済的な状況との相関関係がみられるが、今回の本市調査ではその傾向はみられない。

【参考】授業の理解状況（中学生）



(令和3年 子供の生活状況調査 内閣府)

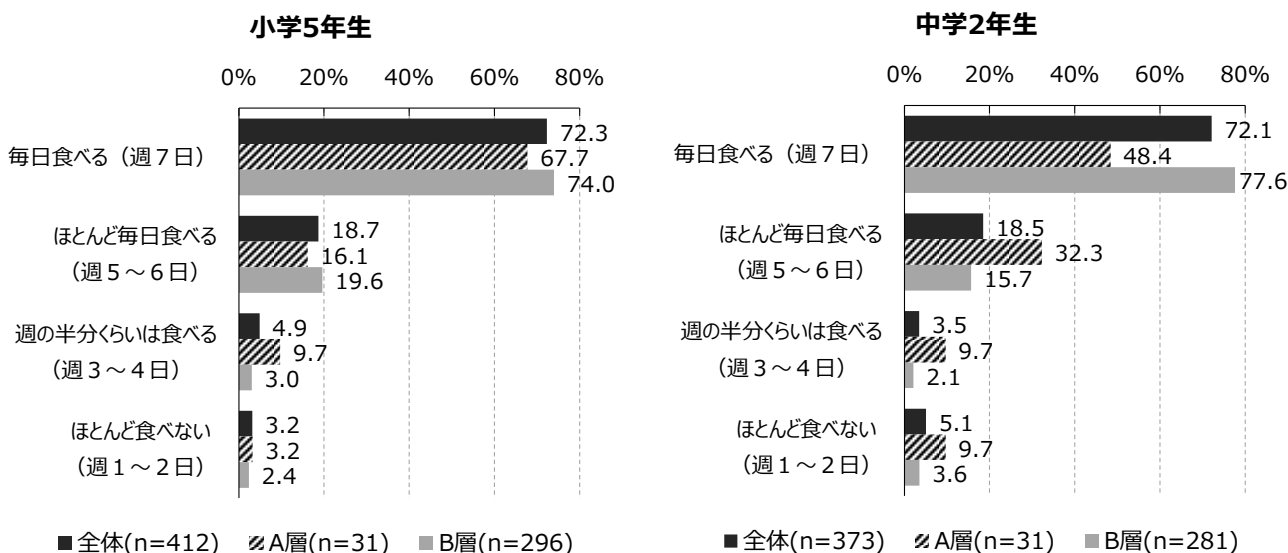
問 13 あなたは、週にどのくらい食事をしていますか。a～c のそれぞれについて教えてください。

a) 朝食

小学 5 年生では「毎日食べる（週 7 日）」が 72.3%と最も多く、「ほとんど毎日食べる（週 5～6 日）」が 18.7%、「週の半分くらいは食べる（週 3～4 日）」が 4.9%。

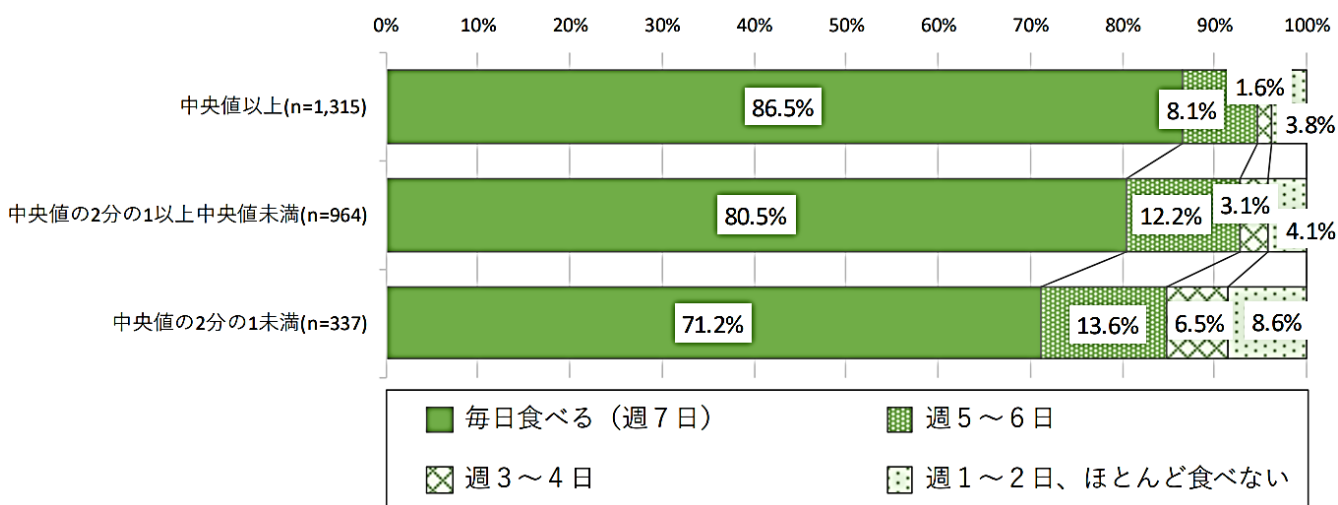
中学 2 年生では「毎日食べる（週 7 日）」が 72.1%と最も多く、「ほとんど毎日食べる（週 5～6 日）」が 18.5%、「ほとんど食べない（週 1～2 日）」が 5.1%。

「毎日食べる（週 7 日）」は、中学 2 年生では A 層が全体より 23.7 ポイント少ない。



- 「毎日食べる（週 7 日）」と経済的な状況との相関が、全国調査と同様にみられる。中学 2 年生の「毎日食べる（週 7 日）」「ほとんど食べない（週 1～2 日）」において、経済的な状況との相関が大きく表れている。

【参考】朝食の摂取（中学生）



（令和 3 年 子供の生活状況調査 内閣府）

子育てに不安になること

【小5中2保護者】

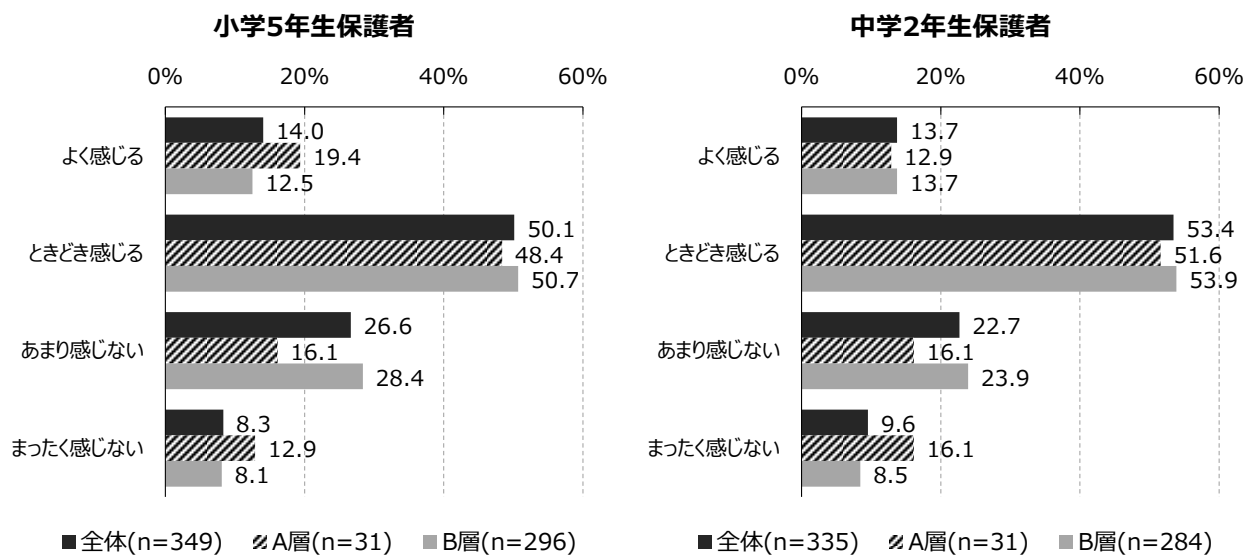
問 11 あなたは、子どもとの生活の中で次のようなことを感じることはありますか。

d) 子育てに不安になることがある

小学5年生保護者では「ときどき感じる」が50.1%と最も多く、「あまり感じない」が26.6%、「よく感じる」が14.0%。

中学2年生保護者では「ときどき感じる」が53.4%と最も多く、「あまり感じない」が22.7%、「よく感じる」が13.7%。

「よく感じる」は、小学5年生保護者ではA層が全体より多い。

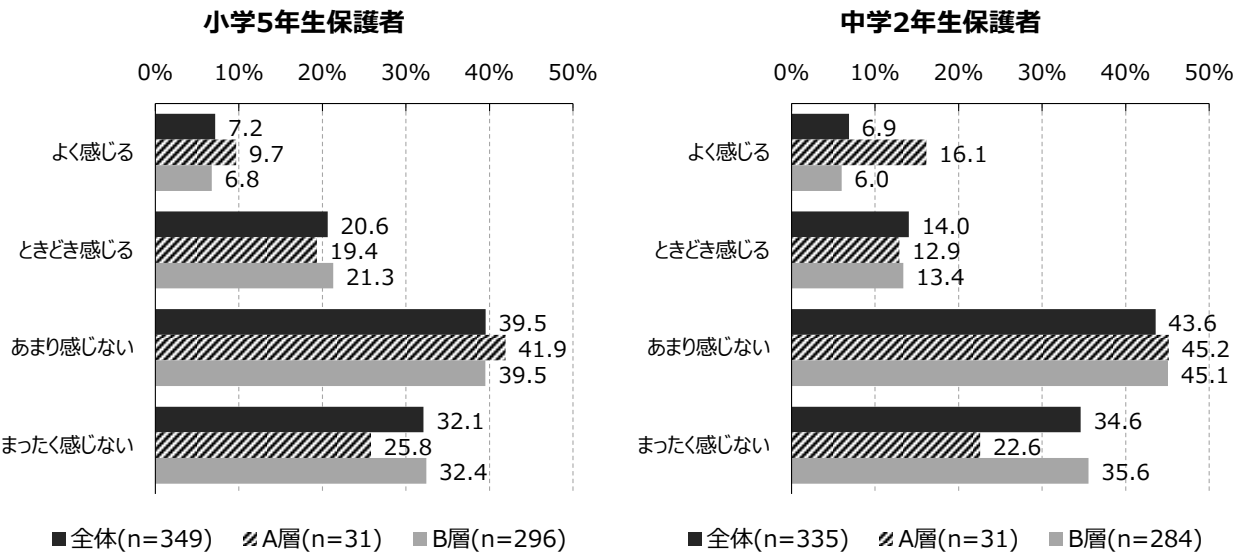


一人ぼっちで子育てをしている感じ

【小5中2保護者】

問 11 g) 一人ぼっちで子育てをしている感じがする

小学5年生保護者では「あまり感じない」が39.5%と最も多く、「まったく感じない」が32.1%、「ときどき感じる」が20.6%。
 中学2年生保護者では「あまり感じない」が43.6%と最も多く、「まったく感じない」が34.6%、「ときどき感じる」が14.0%。
 「よく感じる」をみると、中学2年生保護者では9.2ポイントの差で、A層が全体より多い。



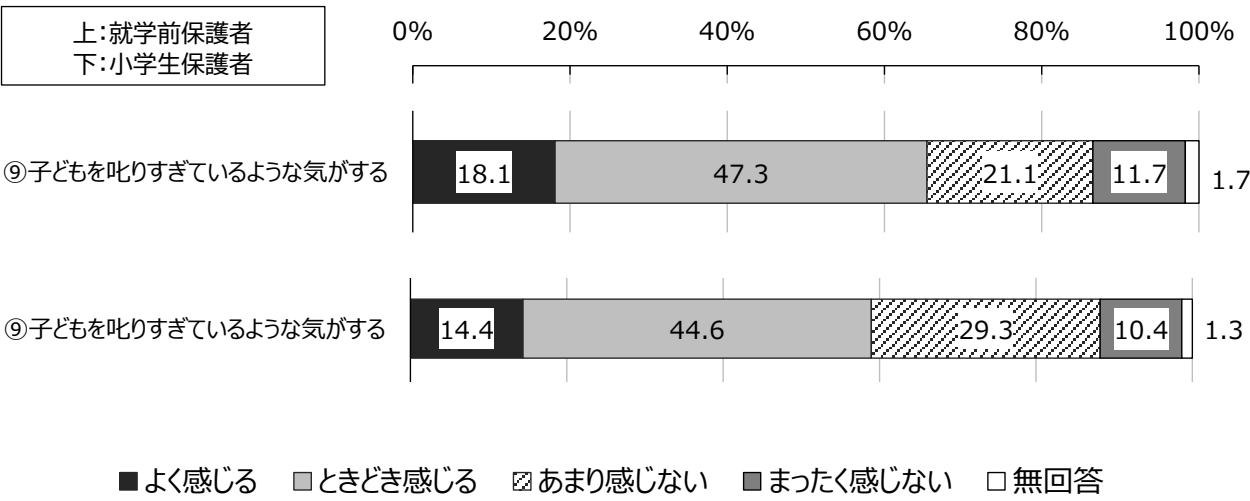
子どもを叱りすぎているような気がする

【就学前保護者】【小学生保護者】

問 24 (問 19) 子育てをしていて次のようなことを感じることはありますか。

⑨子どもを叱りすぎているような気がする

「よく感じる」は就学前保護者で18.1%、小学生保護者で14.4%となっている。



※報告書から当該設問部分を抜き出し

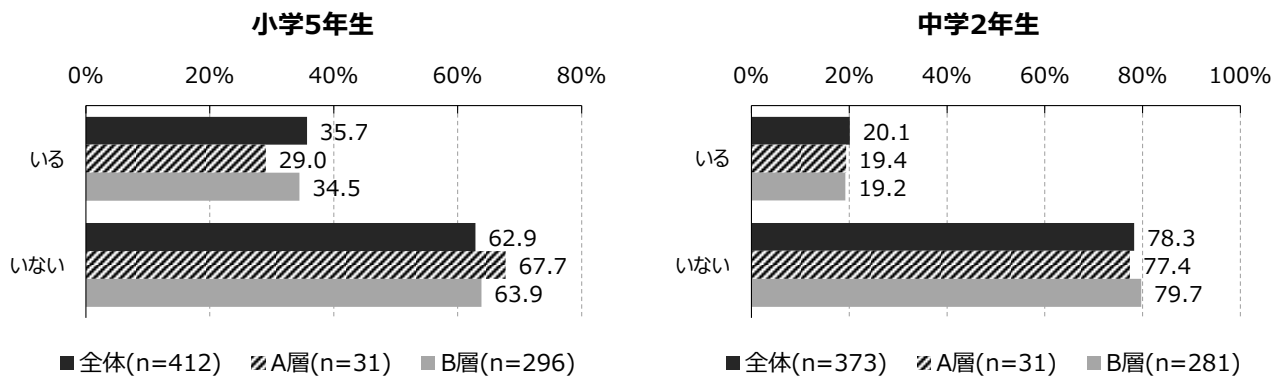
- 「子育てに不安になること」「一人ぼっちで子育てをしている感じ」の回答が、そのままネグレクトや児童虐待につながるといった短絡的な議論になってはならない。しかし、子育て当事者の不安感や孤立感に対しては少しでも早く支援の手が差し伸べられることが望ましい。
- 「子どもを叱りすぎているような気がする」も同様である。イコール虐待といえるものでは決してない。ただし、就学前保護者の方が「よく感じる」「ときどき感じる」とも小学生保護者より多く、乳幼児期の子どもの保護者が気軽に相談できる体制づくりの重要性がうかがえる。

問 23 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

※ここで「お世話」とは、大人がしているような家事や家族のお世話をのことをいいます。たとえば、食事の用意や、そうじ・せんたく・買い物などの家事、着がえやおふろ・トイレの手つだいなどです。

小学5年生では「いる」が35.7%、「いない」が62.9%。

中学2年生では「いる」が20.1%、「いない」が78.3%。

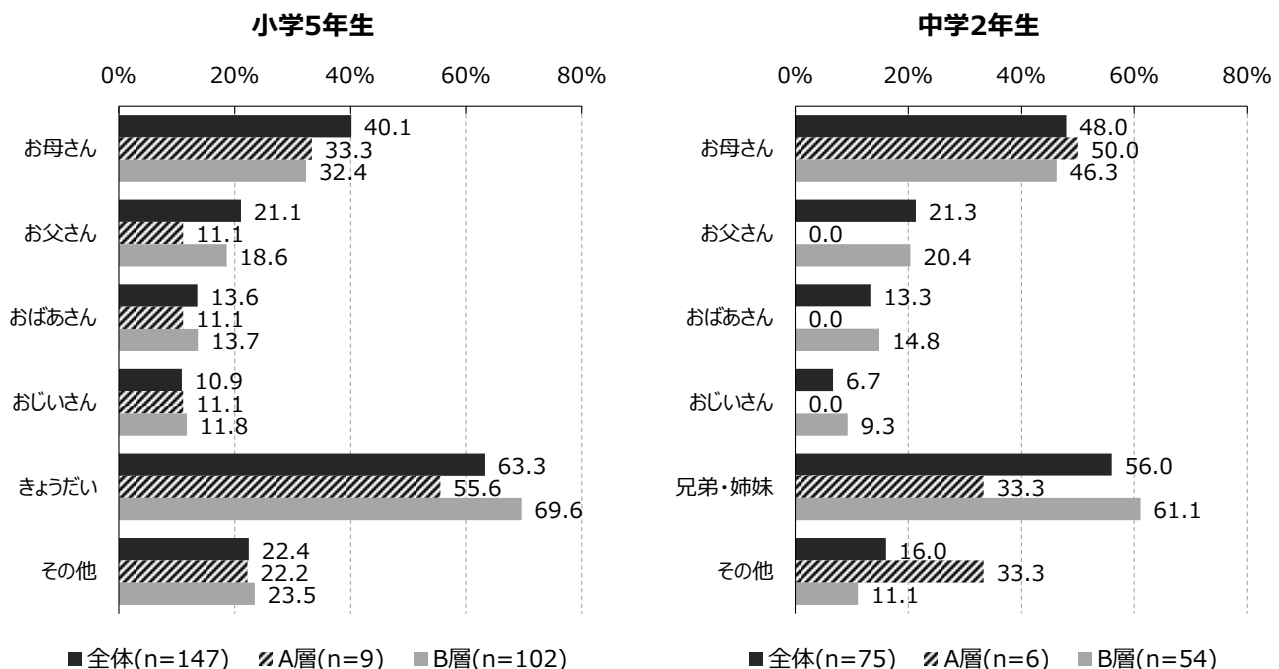


「お世話をしている人がいる」人のお世話の対象

問 24 あなたは、だれのお世話をしていますか。(複数回答)

小学5年生では「きょうだい」が63.3%と最も多く、「お母さん」が40.1%、「その他」が22.4%。

中学2年生では「兄弟・姉妹」が56.0%と最も多く、「お母さん」が48.0%、「お父さん」が21.3%。

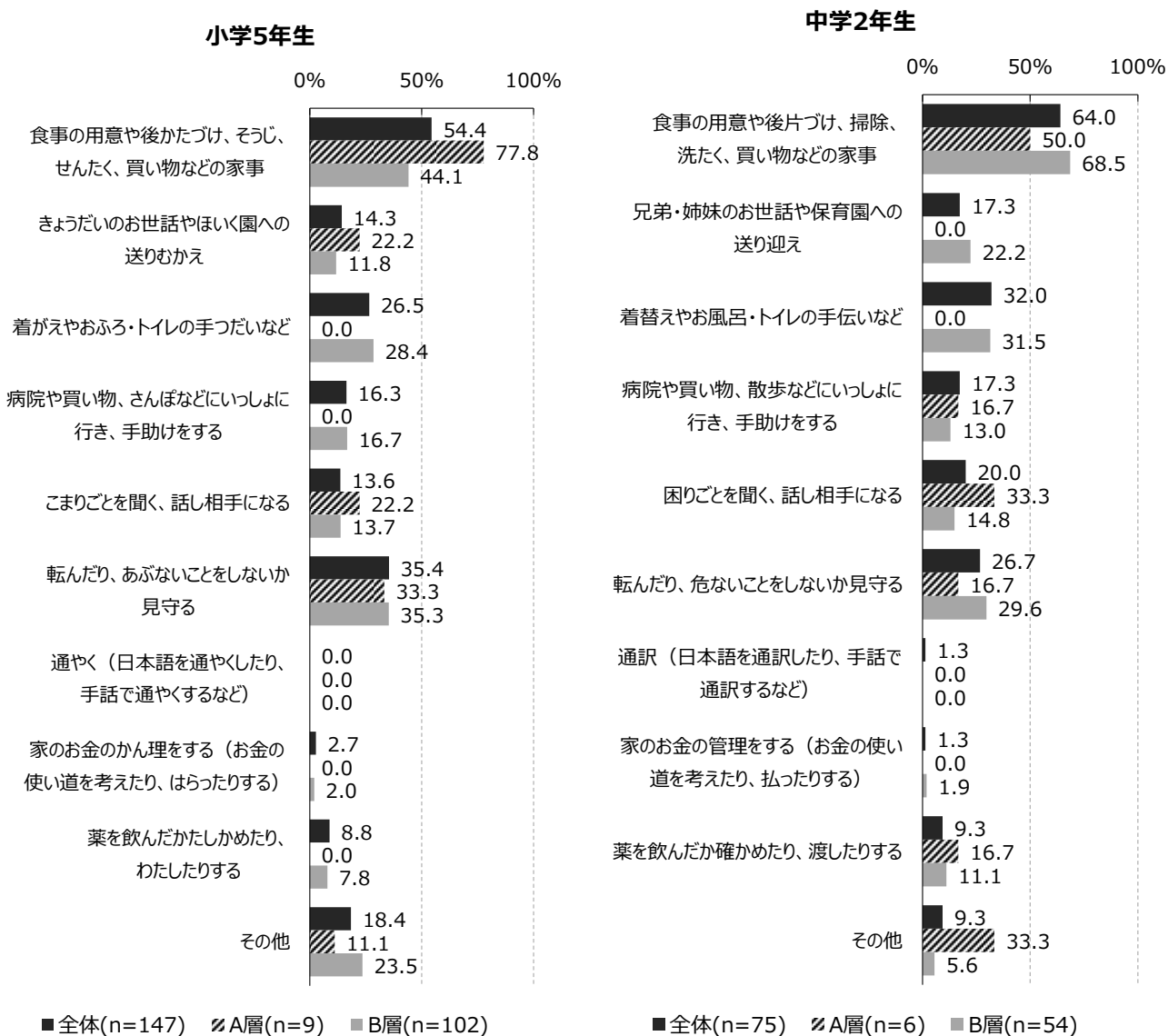


- お世話をしている家族がいる場合の対象で、祖父・祖母より兄弟・姉妹が多いことは、小5・中2 保護者への調査における同居家族の設問(問2)で、小学5年生・中学2年生とも、祖父・祖母が「いない」が過半数となっており、子どもと祖父・祖母の同居が少ない状況にあることにもよると思われる。

問 25 あなたは、どのようなお世話をしていますか。（複数回答）

小学5年生では「食事の用意や後かたづけ、そうじ、せんたく、買い物などの家事」が54.4%と最も多く、「転んだり、あぶないことをしないか見守る」が35.4%、「着がえやおふろ・トイレの手つだいなど」が26.5%。

中学2年生では「食事の用意や後片づけ、掃除、洗たく、買い物などの家事」が64.0%と最も多く、「着替えやお風呂・トイレの手伝いなど」が32.0%、「転んだり、危ないことをしないか見守る」が26.7%。



- 「家事や家族のお世話をしている子ども＝ヤングケアラー」とはいえない。ヤングケアラーの存在について今回の調査のみで量ることには限界がある。
- 家族のお世話には思いやりの心を育む良い面もあり、上記回答の内容が過度な負担になっていないか、子どもらしく過ごす権利の侵害につながっていないかなど、個々のケースを慎重に確認することが今後重要と考えられる。

子どもの自己評価

【小5】【中2】

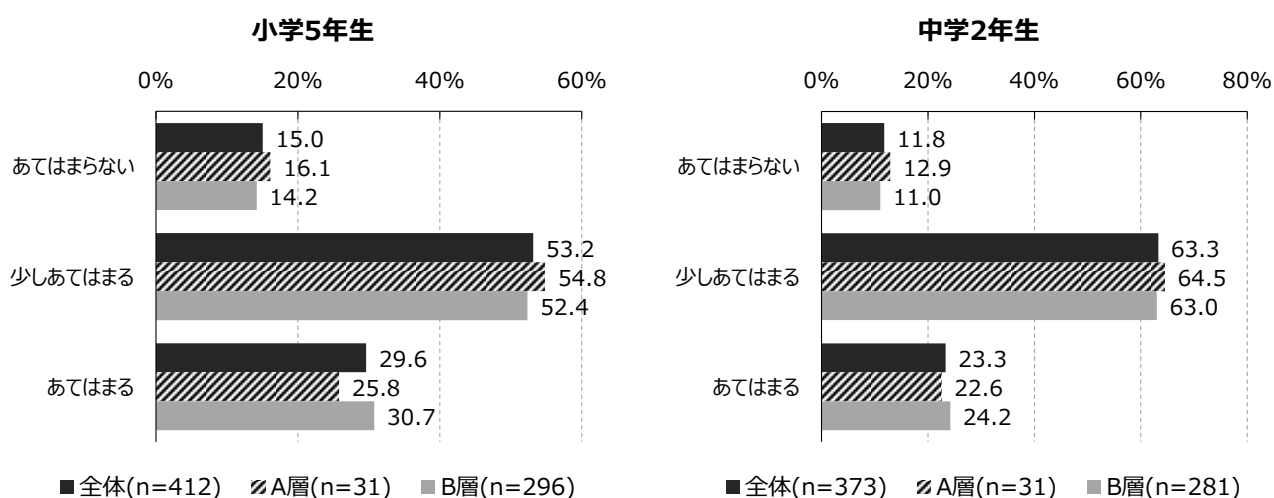
問 20 次の質問について、「あてはまらない」「少しあてはまる」「あてはまる」から回答してください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。

i) 同じくらいの年れいの子どもからは、だいたい好かれている。

小学5年生では「少しあてはまる」が53.2%と最も多く、「あてはまる」が29.6%、「あてはまらない」が15.0%。

中学2年生では「少しあてはまる」が63.3%と最も多く、「あてはまる」が23.3%、「あてはまらない」が11.8%。

「あてはまらない」において、学齢によらずA層が全体よりわずかながら多い。

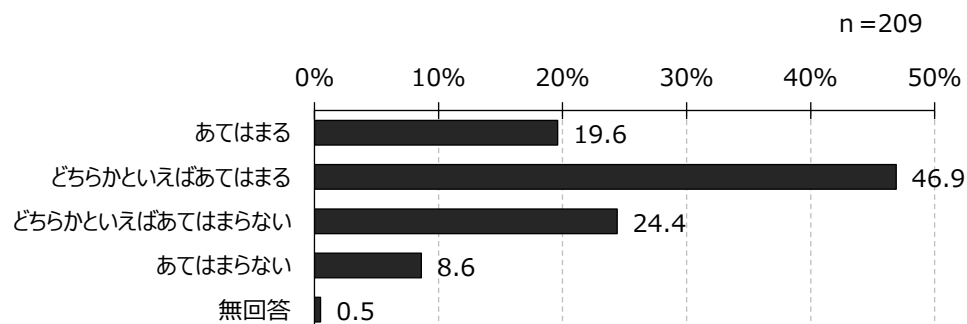


- 自己肯定感や道徳性、社会性などを育み、友人関係や遊びを通じて協調性や自主性を身につけるべき時期にある子どもが、家庭の経済的状況などにかかわらず自己肯定感を高めることができる環境を整えていくことが重要。

問 10 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。

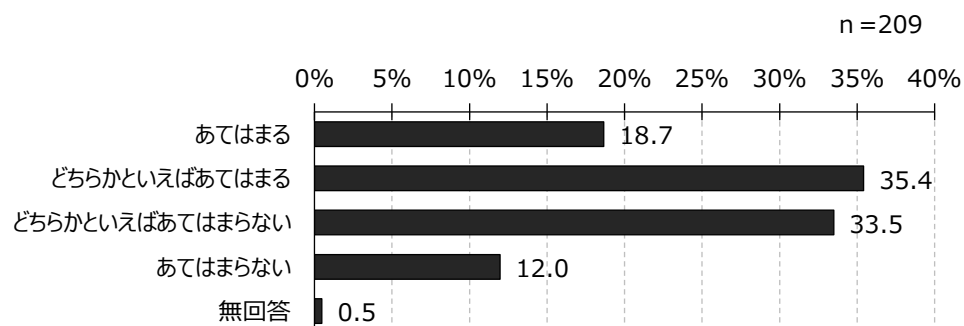
⑨今の自分が好きだ

「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせた「あてはまる」が 66.5%。



問 10 ⑭自分自身に満足している

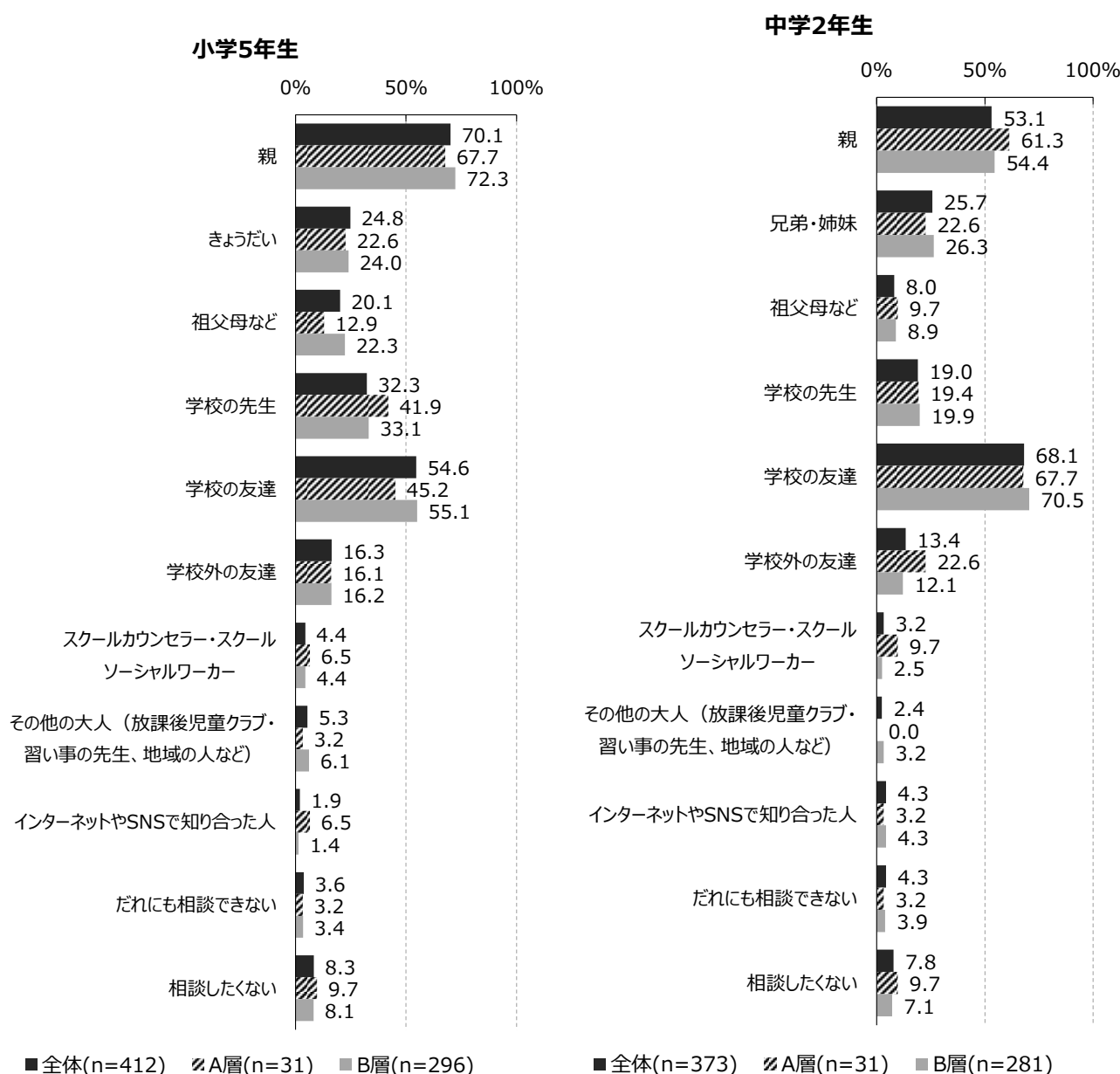
「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせた「あてはまる」が 54.1%。



- 若者世代の自己肯定感、自己についての満足感が高いが、いずれの設問においても「あてはまらない」の回答がみられる。
- 若者調査の回答者の年齢構成は、「35 歳～39 歳」が 33.5%と最も多く、「30 歳～34 歳」が 27.3%、「15 歳～19 歳」が 18.7%、「25 歳～29 歳」が 13.4%、「20 歳～24 歳」が 7.2%。上記は30歳代以上が過半数となる回答内容。

問 16 こまっていることやなやみごとがあるとき、相談できると思う人はだれですか。(複数回答)

小学5年生では「親」が70.1%と最も多く、「学校の友達」が54.6%、「学校の先生」が32.3%。
中学2年生では「学校の友達」が68.1%と最も多く、「親」が53.1%、「兄弟・姉妹」が25.7%。

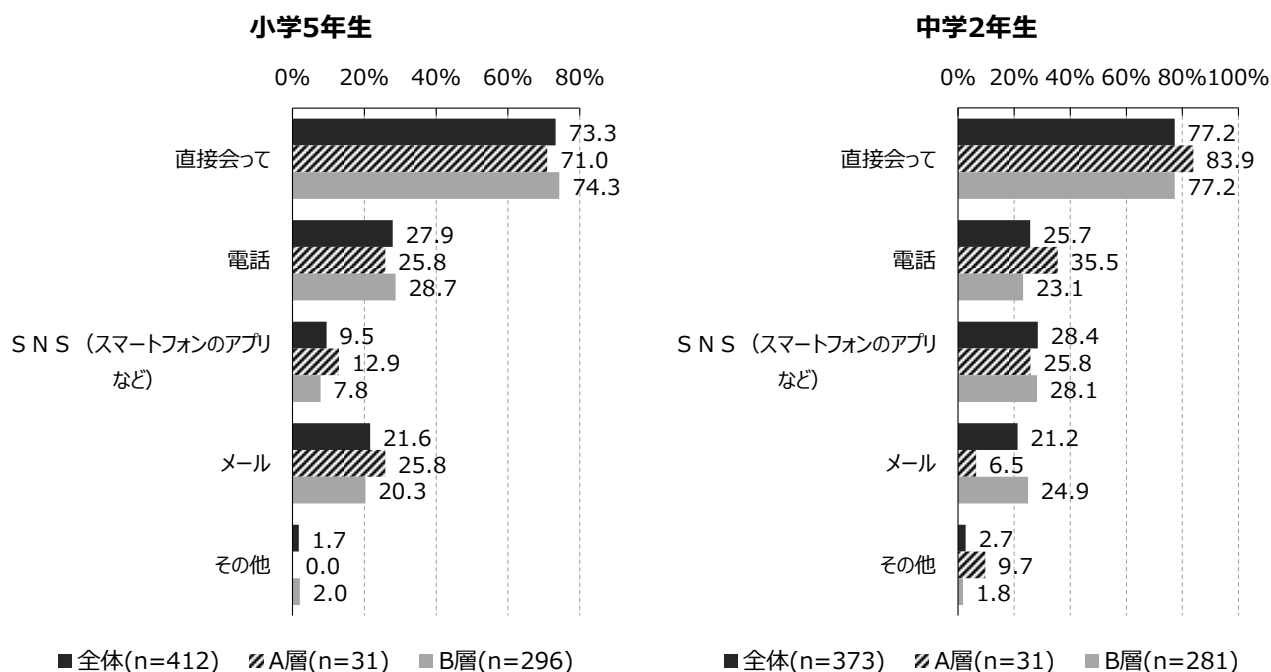


- 子どもが困りごとや悩みごとを相談する先は家族・親族、友人、先生が主であり、公的な機関や支援者は多くないが、子どもが日常的に接する頻度によるものとも考えられる。
- 「だれにも相談できない」が、小学5年生で3.6%、中学2年生で4.3%みられる。よい相談先が思いつかない状況とも思われる「相談したくない」が、小学5年生で8.3%、中学2年生で7.8%みられる。
- 家族・親族、友人、先生には相談しにくい悩みや困りごとがあったとき、それを受け止めてくれる機関や支援者の存在が子どもに伝わっていること、また、それらが子どもたちからみて「相談しやすいところ・人」と捉えられるようにすることも大切と思われる。

問 17 あなたにこまっていることや悩みごとがあるとき、どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。（複数回答）

小学5年生では「直接会って」が73.3%と最も多く、「電話」が27.9%、「メール」が21.6%。

中学2年生では「直接会って」が77.2%と最も多く、「SNS（スマートフォンのアプリなど）」が28.4%、「電話」が25.7%。



- 話を聞いたり相談にのったりしてもらうときは「直接会って」の方法を希望する声が最も多い。SNS やメールといったインターネットを介した方法を希望する声も一定数存在する。

子育てや教育に関する経済的負担の軽減

子育てにかかる経済的な負担感

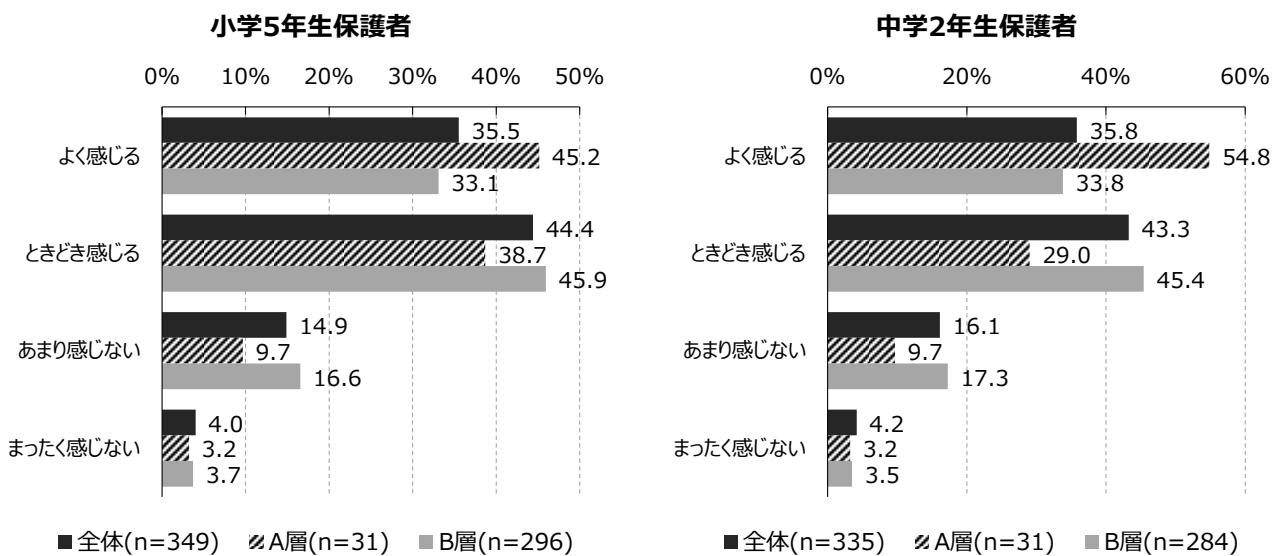
【小5中2保護者】

問 11 あなたは、子どもとの生活の中で次のようなことを感じることはありますか。

f) 子育てにかかる経済的な負担を感じる

小学5年生保護者では「ときどき感じる」が44.4%と最も多く、「よく感じる」が35.5%、「あまり感じない」が14.9%。

中学2年生保護者では「ときどき感じる」が43.3%と最も多く、「よく感じる」が35.8%、「あまり感じない」が16.1%。



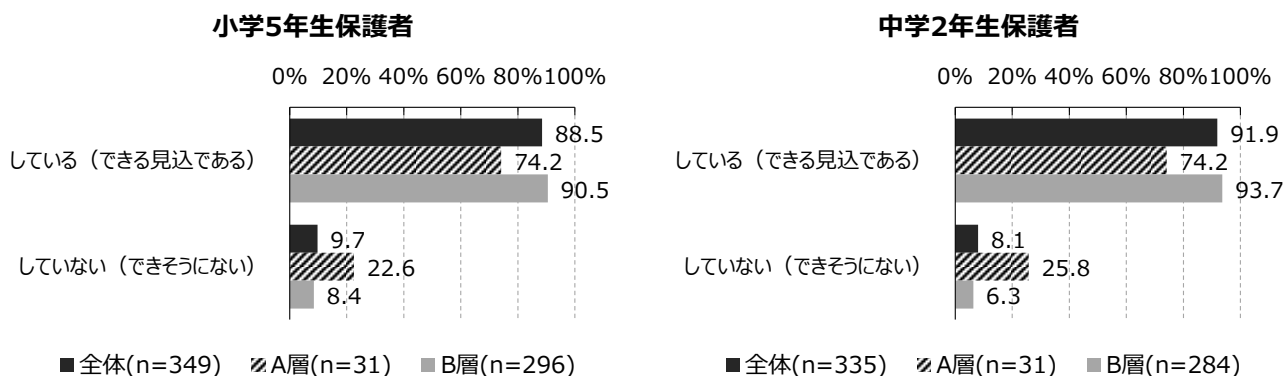
- 「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた「感じる」の割合は、小学5年生保護者で79.9%、中学2年生保護者で79.1%となる。
- 「よく感じる」では、小学5年生保護者で9.7ポイント、中学2年生保護者で19.0ポイント、A層が全体より多い。

問 14 あなたの家庭ではお子さんに次のようなことをされていますか。または、できそうですか。

n) 希望すれば大学等へ進学させる

小学5年生保護者では「している（できる見込である）」が88.5%、「していない（できそうにない）」が9.7%。

中学2年生保護者では「している（できる見込である）」が91.9%、「していない（できそうにない）」が8.1%。



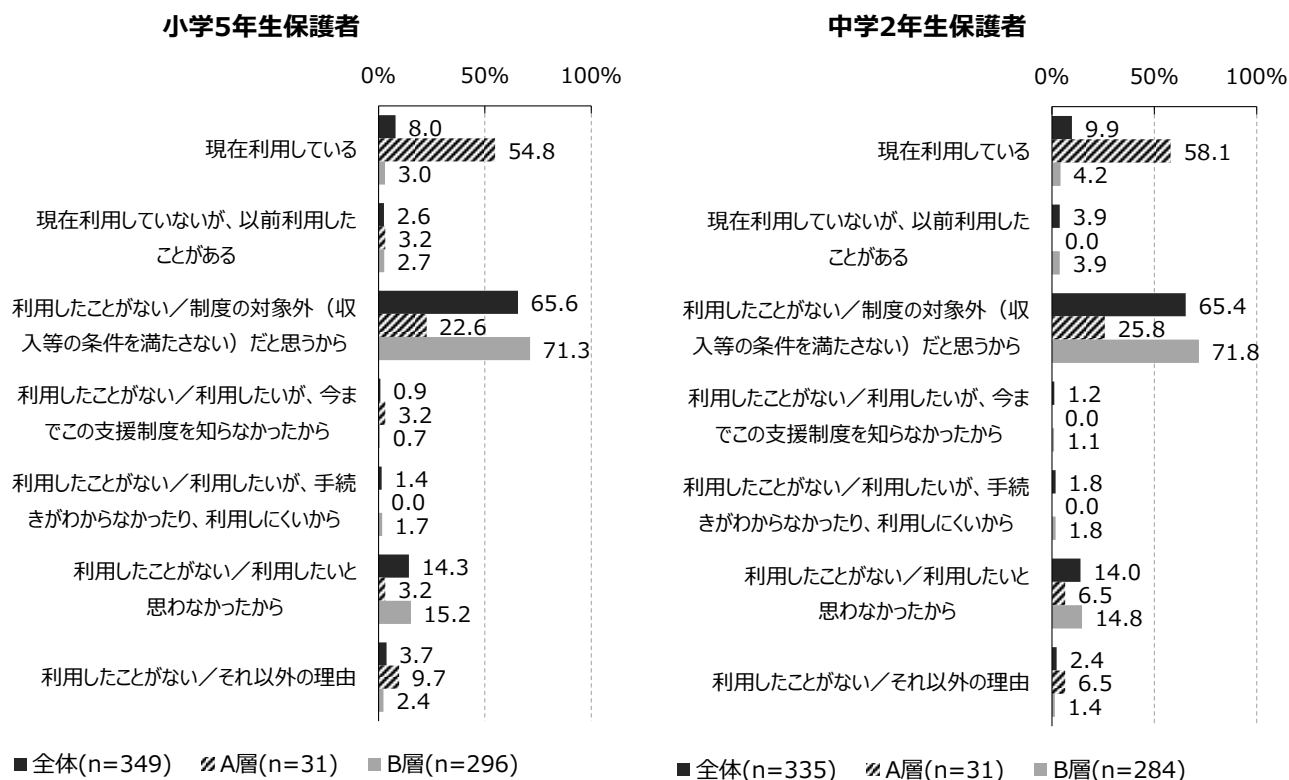
- 小学5年生保護者、中学2年生保護者ともに「している(できる見込である)」はA層が全体より少なく、「していない(できそうにない)」はA層が全体より多くなっている。
- 子どもが大学等への進学を希望していても、経済的な事情によりその選択が制限されてしまう可能性がうかがえる。

問 23 あなたのご家庭では、次の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

a) 就学援助

小学5年生保護者では「利用したことがない／制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が65.6%と最も多く、「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が14.3%、「現在利用している」が8.0%。

中学2年生保護者では「利用したことがない／制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が65.4%と最も多く、「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が14.0%、「現在利用している」が9.9%。



- 利用したいが手続きがわからなかったり利用しにくい、という意見は少ない。また、就学援助の制度を知らなかったという意見も少ない。
- 「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が、小学5年生保護者で14.3%、中学2年生保護者で14.0%となっている。その背景が、必要を感じていなかったからなのか、体面を気にするなど他の要因によるものなのかは本調査だけでは量り難いが、特に経済的支援の各種制度の利用勧奨において考慮すべきポイントと考えられる。

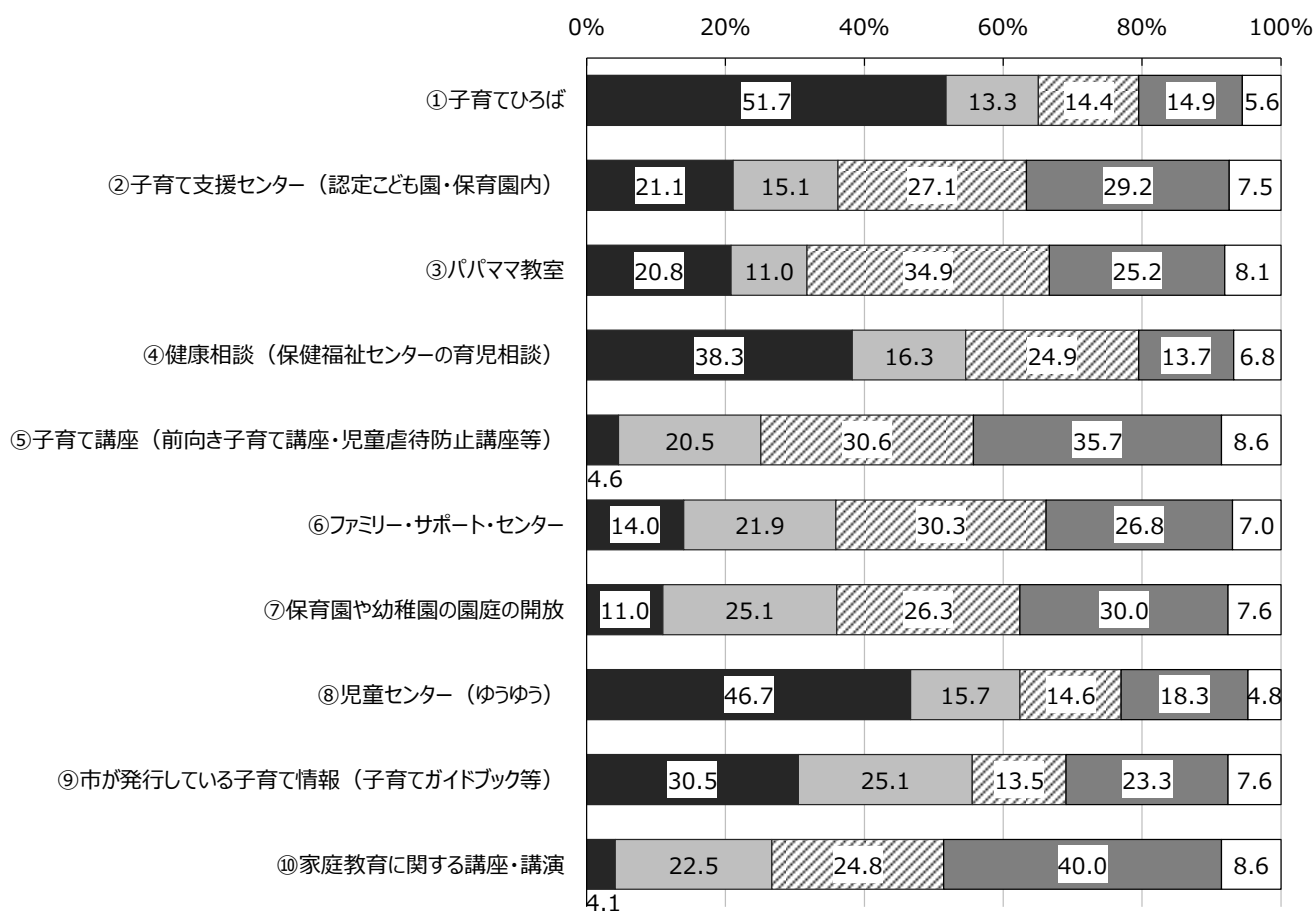
地域の子育て支援事業の利用状況

【就学前保護者】

問 14 次の事業やサービスで知っているものや、利用の状況・希望をお答えください。

「利用している／したことがある」は、「①子育てひろば」が51.7%、「⑧児童センター（ゆうゆう）」が46.7%、「④健康相談」が38.3%、「⑨市が発行している子育て情報」が30.5%。

(n=630)



■ 利用している/したことがある ■ 今後は利用したい ▨ 利用の必要はない ■ この事業を知らない □ 無回答

- それぞれの事業で利用の状況や希望が異なることは、当事者にとっての必要性などが異なることから当然と考えられる。
- それぞれの事業における「この事業を知らない」の割合に注目すべきであり、周知や情報提供の不足によって利用されていないとすれば、改善のための対策を検討する必要がある。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所の利用経験と利用意向

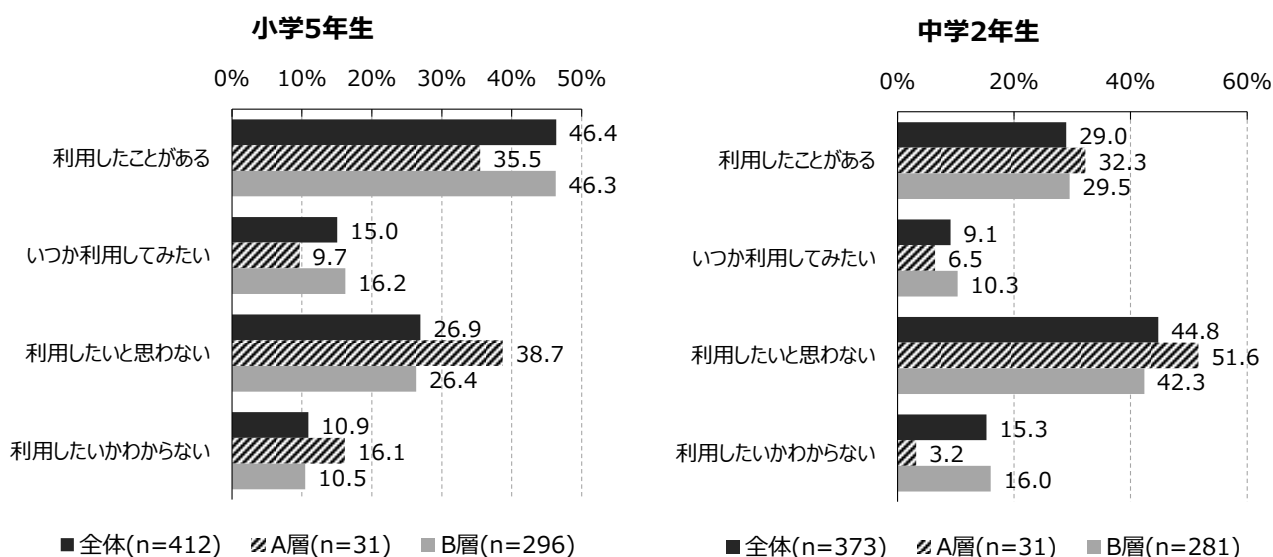
【小5】【中2】

問 21 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか（自分や友だちの家、学校はふくみません）。また、利用したことがない場合、いつか利用したいと思いますか。

a) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所（放課後児童クラブなど）

小学5年生では「利用したことがある」が46.4%と最も多く、「利用したいと思わない」が26.9%、「いつか利用してみたい」が15.0%。

中学2年生では「利用したいと思わない」が44.8%と最も多く、「利用したことがある」が29.0%、「利用したいかわからない」が15.3%。



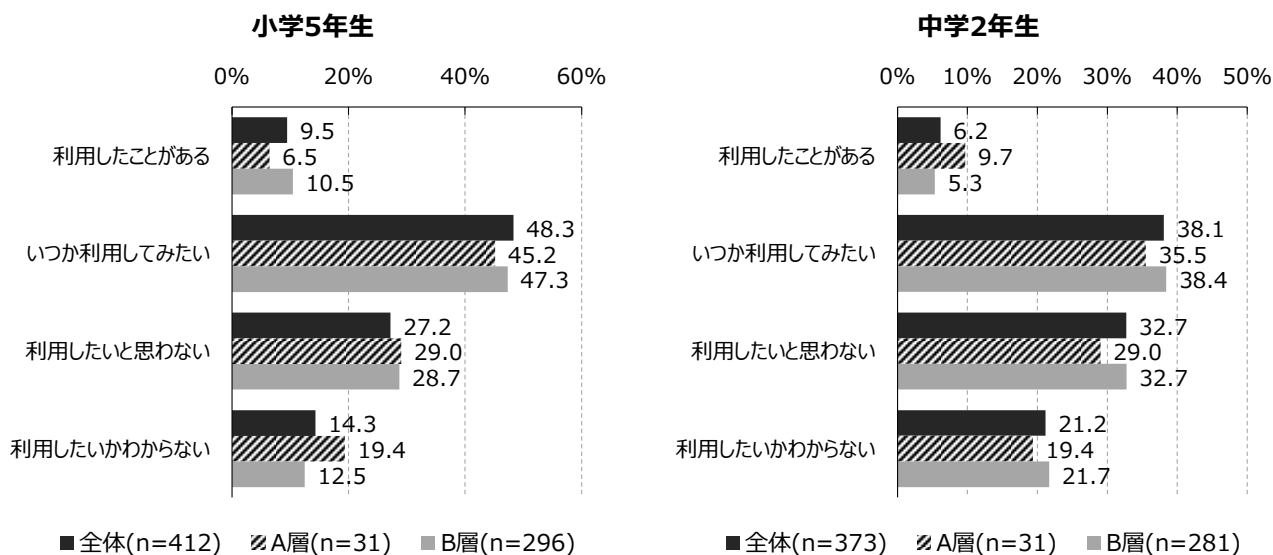
ごはんを無料か安く食べることができる場所の利用経験と利用意向

【小5】【中2】

問 21 b) ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）

小学5年生では「いつか利用してみたい」が48.3%と最も多く、「利用したいと思わない」が27.2%、「利用したいかわからない」が14.3%。

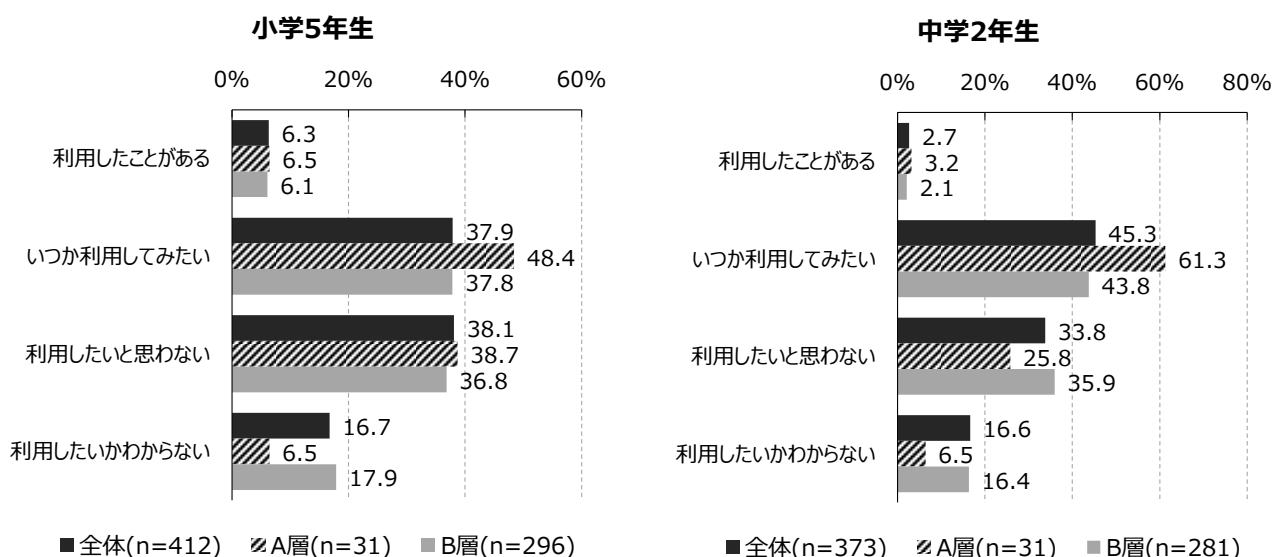
中学2年生では「いつか利用してみたい」が38.1%と最も多く、「利用したいと思わない」が32.7%、「利用したいかわからない」が21.2%。



問 21 c) 勉強を無料でみてくれる場所

小学5年生では「利用したいと思わない」が38.1%と最も多く、「いつか利用してみたい」が37.9%、「利用したいかわからない」が16.7%。

中学2年生では「いつか利用してみたい」が45.3%と最も多く、「利用したいと思わない」が33.8%、「利用したいかわからない」が16.6%。



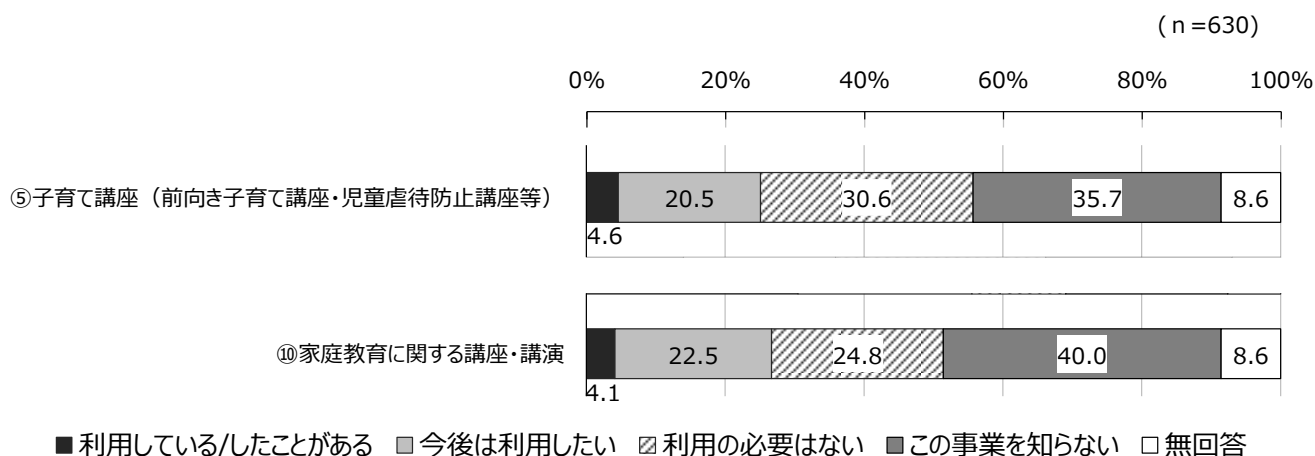
- 上記3つの「場所」は、いずれも地域において子どもが安心・安全に過ごすことのできる居場所である。
- 「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」の利用経験は、小学5年生の46.4%に対して中学2年生では29.0%と少ない。中学2年生は小学校時代の利用を度外視して回答している可能性はある。「利用したいと思わない」は、中学2年生では44.8%で小学5年生の26.9%より多い。
- 「ごはんを無料か安く食べることができる場所」、「勉強を無料でみてくれる場所」は、いわゆる子どもの貧困の解消に向けた対策の中で地域の支援により実施されていることが多いものとなる。そこでは、支援の提供にあたって当事者(家族・子ども)が「負い目」や「恥ずかしさ」といったことを感じないようにする配慮が最も重要と考えられ、これはヤングケアラー支援にも通じる点である。行政による広報・告知等にまで及ぶ配慮ポイントと考えられる。
- いわゆる子どもの貧困の解消に向けた対策では、各種手当や給付金のような、制度上対象者を明示する必要のある支援と、経済的な困難状況にある家庭や子どもへの配慮を怠ることなく、かつすべての家庭と子どもを視野に取り組んでいくべき支援が考えられる。

問 14 次の事業やサービスで知っているものや、利用の状況・希望をお答えください。

⑤ 子育て講座（前向き子育て講座・児童虐待防止講座等）

⑩ 家庭教育に関する講座・講演

⑤⑩のいずれも「利用している／したことがある」は、他の事業やサービス（前掲）と比べると少ない。しかし「今後は利用したい」の意向は、いずれも 20%以上となっている。



※P28、【就学前保護者】問 14 より一部を再掲

- 利用意向が一定数あるにもかかわらず、「この事業を知らない」の割合は他の事業やサービスと比べて高めとなっている。
- 一層の事業の周知や利用勧奨が求められるところと思われる。また、実施場所・曜日・時間などの工夫も考えられる。

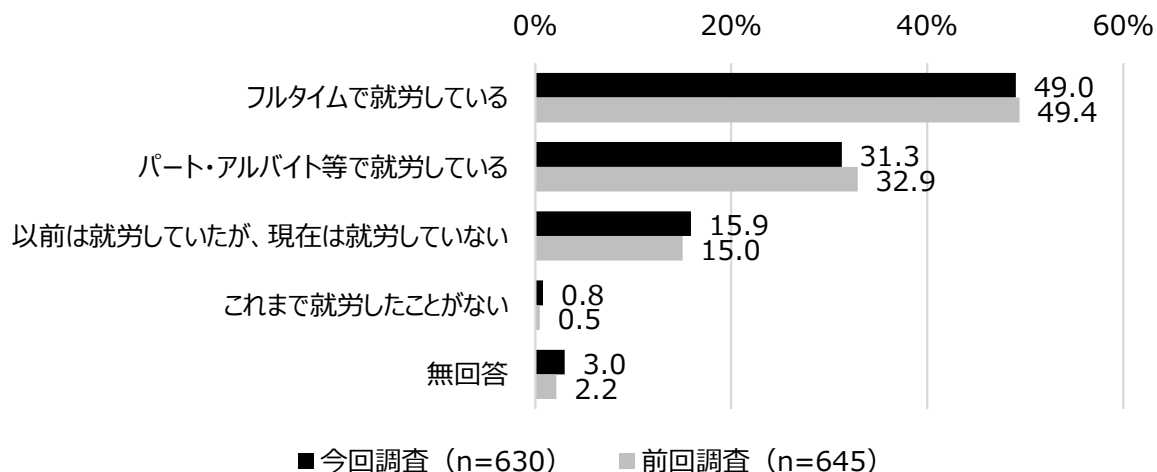
母親の現在の就労状況

【就学前保護者】

問 10 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む）は次のどれですか。

（１）「お母さん」について

「フルタイムで就労している」が49.0%と最も多く、「パート・アルバイト等で就労している」が31.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が15.9%、「これまで就労したことがない」が0.8%。前回調査と比較すると、フルタイムでの就労が0.4ポイント、パート・アルバイト等での就労が1.6ポイントとわずかに減少している。

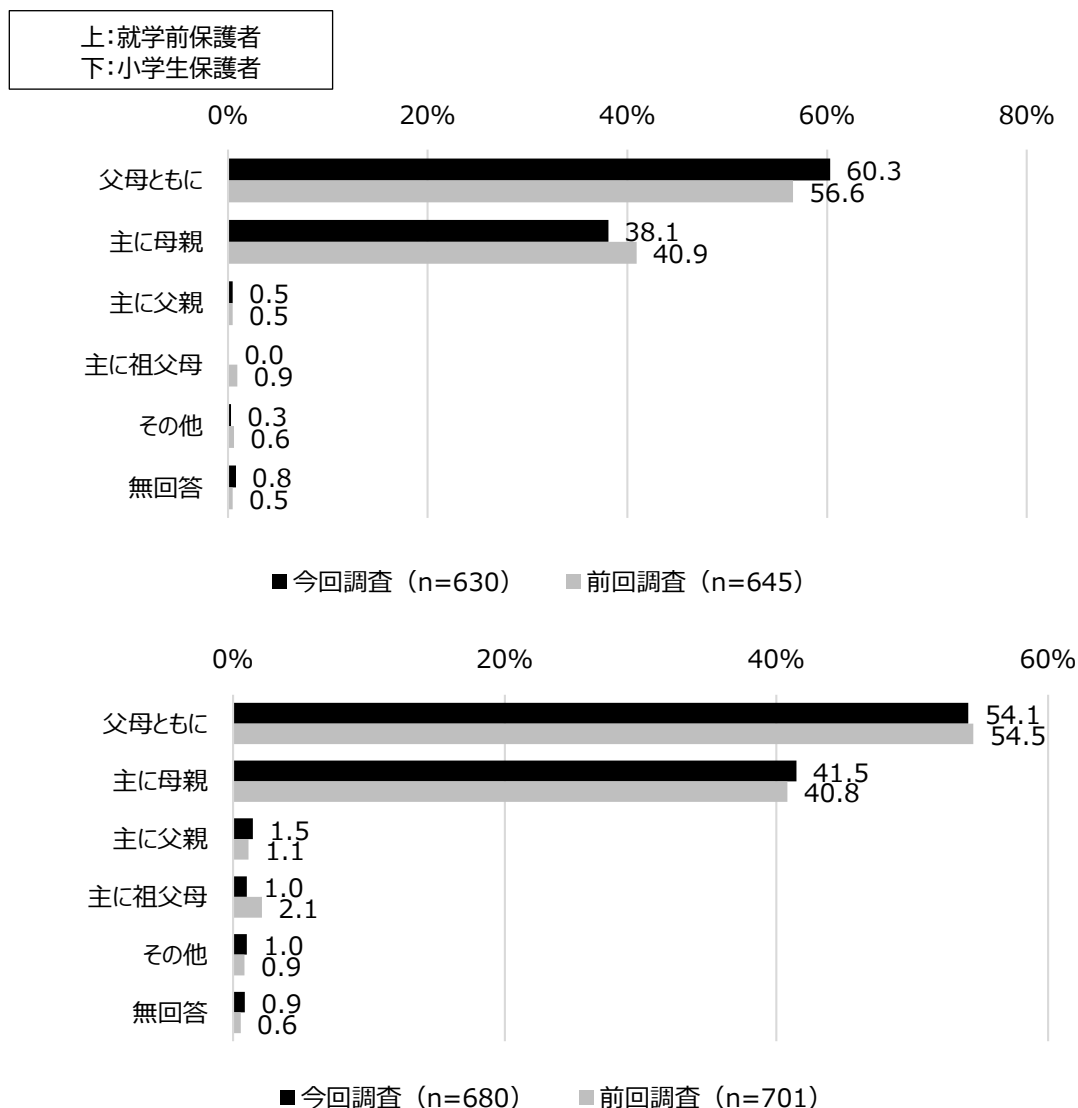


- 前回調査は平成 30 年度に実施されたものであり、この結果は母親の就労がコロナ禍を経ても減ってはいないと捉えることができる。幼児期の母親がフルタイム就労を選ぶ(あるいは求める)傾向が今後も続く可能性は大きい。

問7 お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っている方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

就学前保護者では、「父母ともに」が60.3%と最も多く、「主に母親」が38.1%、「主に父親」が0.5%。前回調査と比較すると、「父母ともに」は3.7ポイント増加し、「主に母親」は2.8ポイント減少している。

小学生保護者では、「父母ともに」が54.1%と最も多く、「主に母親」が41.5%、「主に父親」が1.5%。前回調査と比較すると「父母ともに」が減少し「主に母親」が増加しているが、差は1ポイント未満でありほとんど変化がみられない。

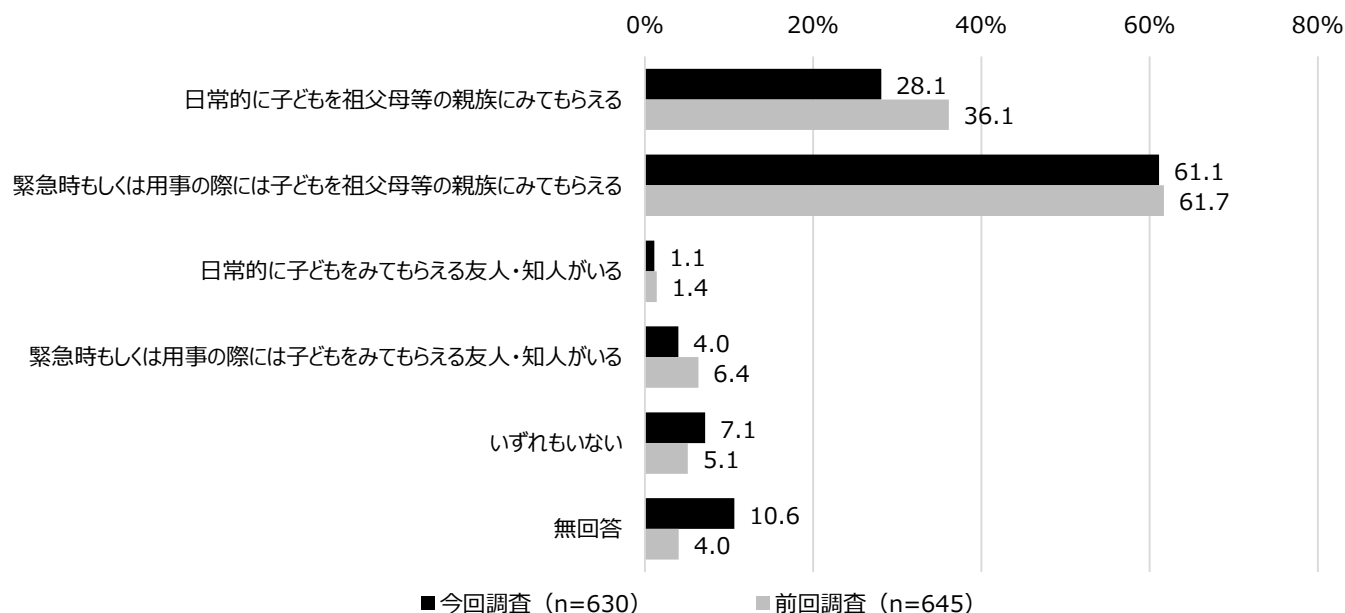


- 就学前保護者において、母親のみではなく父母が協力しての子育てがわずかながら増加している。
- 就労の場での男女共同参画の推進は今後も図られると思われるが、同時に子育て支援においては、従来の「子育てをしている母親への支援」から、父親も含めた「子育てをしている家庭への支援」へという視点の転換も本格的に求められることになると思われる。

問8 日頃、お子さんをみてもらえる親族や知人等はいいますか。(複数回答)

「緊急時もしくは用事の際には子どもを祖父母等の親族にみてもらえる」が61.1%と最も多く、「日常的に子どもを祖父母等の親族にみてもらえる」が28.1%、「いずれもない」が7.1%。

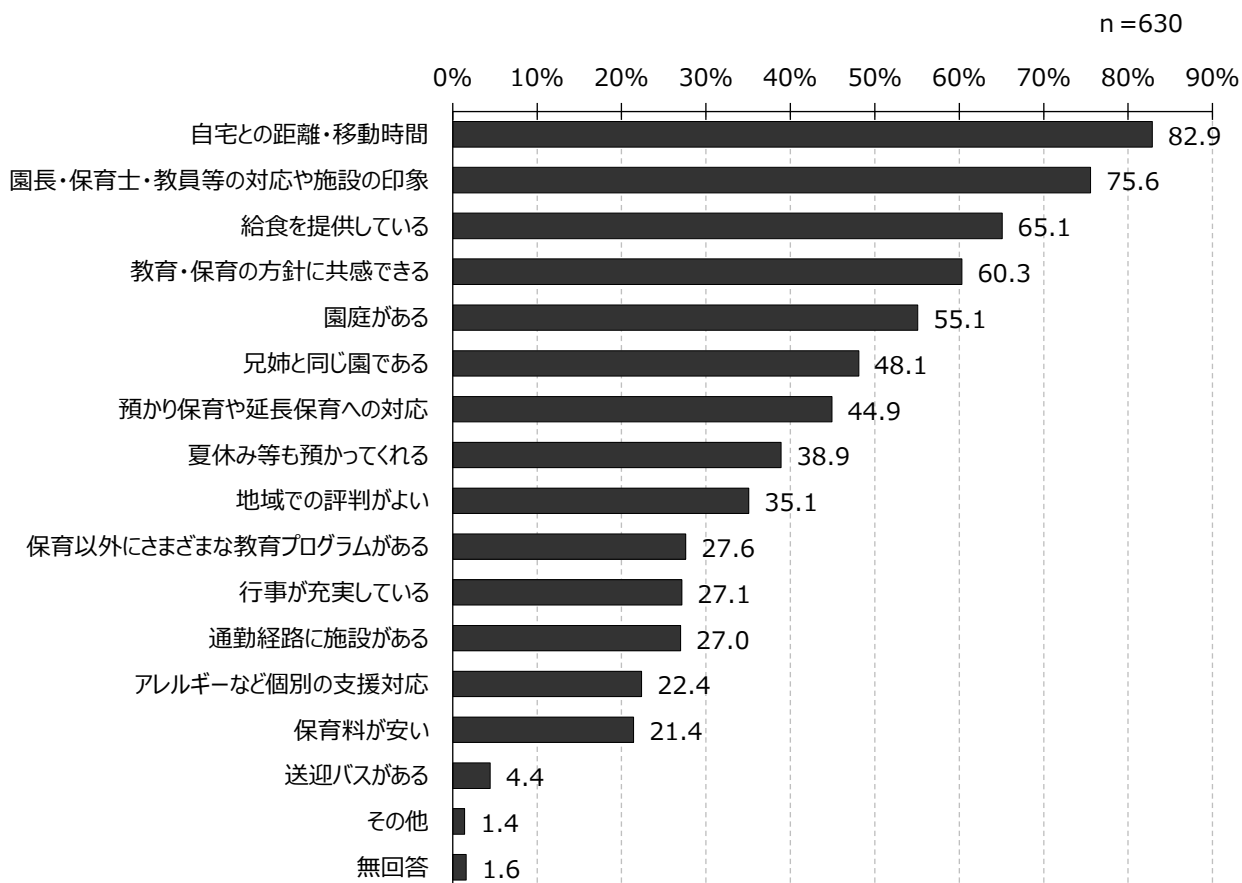
前回調査と比較すると、「日常的に子どもを祖父母等の親族にみてもらえる」が8.0ポイント減少し、「いずれもない」が2.0ポイント増加している。



- 子どもをみてくれる祖父母等の親族は必ずしも同居とは限らないが、前回より減少している。緊急時などでは親族以外の友人・知人を頼りたい場面も考えられるが、緊急時にみてもらえる友人・知人もわずかながら減少している。
- 「いずれもない」の増加に目を向ける必要がある。

問 13 教育・保育事業（施設）を選ぶ際に、重視することは何ですか。（複数回答）

「自宅との距離・移動時間」が82.9%と最も多く、「園長・保育士・教員等の対応や施設の印象」が75.6%、「給食を提供している」が65.1%、「教育・保育の方針に共感できる」が60.3%、「園庭がある」が55.1%。



- 上位 3 位は、「自宅との距離・移動時間」、「園長・保育士・教員等の対応や施設の印象」、「給食を提供している」といった、利用する保護者視点からの使い勝手など。
- 教育・保育の方針や園庭があるといった、そこで過ごす子どもの受けられる教育・保育の内容や環境に関する視点からのものも上位 5 位に入っている。

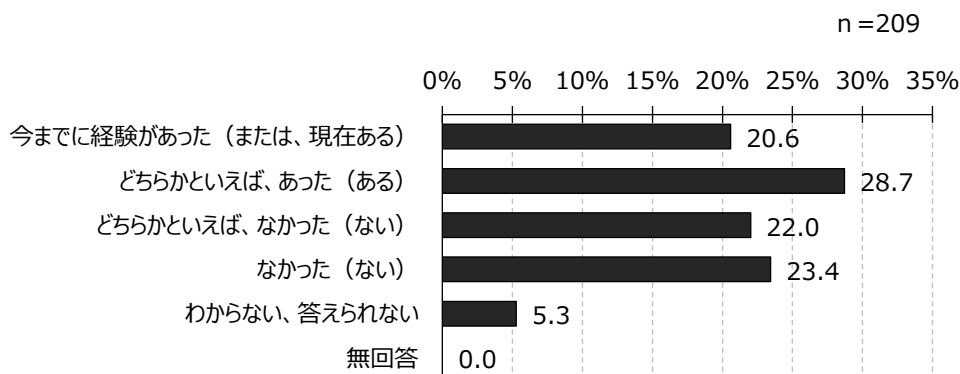
若者（青年期）への支援

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験

【若者】

問 15 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。

「どちらかといえば、あった（ある）」が 28.7%と最も多く、「なかった（ない）」が 23.4%、「どちらかといえば、なかった（ない）」が 22.0%、「今までに経験があった（または、現在ある）」が 20.6%、「わからない、答えられない」が 5.3%。

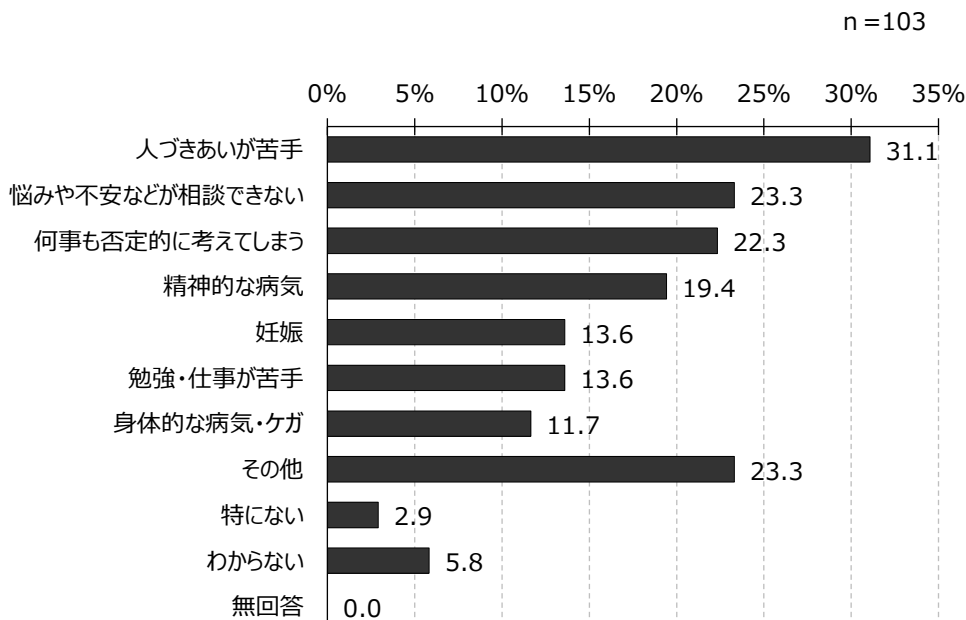


問 15 で「今までに経験があった（または、現在ある）」「どちらかといえば、あった（ある）」人の原因

【若者】

問 15-1 そうした問題を経験した、または現在経験している主な原因は何ですか。（複数回答）

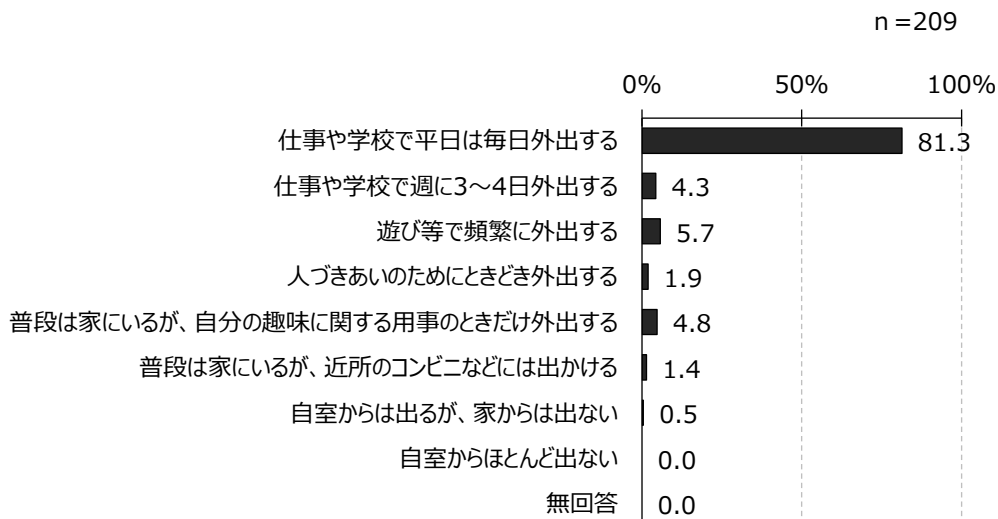
「人づきあいが苦手」が 31.1%と最も多く、「悩みや不安などが相談できない」及び「その他」が 23.3%、「何事も否定的に考えてしまう」が 22.3%、「精神的な病気」が 19.4%。



- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がある（あった）人は 49.3%（どちらかといえば、を含む）。「円滑に送ることができない」はあくまで自己判断によるが、半数近くが経験ありと答え、その原因としては「人づきあいが苦手」、「悩みや不安などが相談できない」といった他者とのかかわりに関連するものが上位となっている。

問9 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。

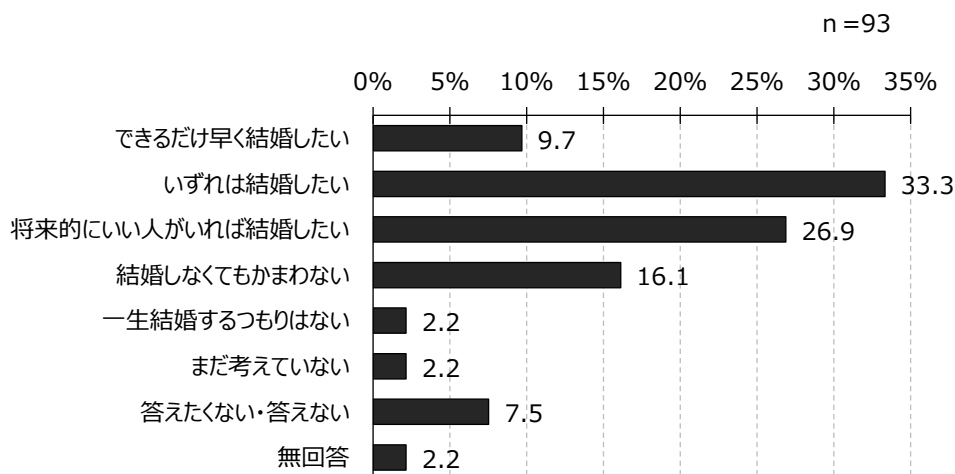
「仕事や学校で平日は毎日外出する」が81.3%と最も多く、「遊び等で頻繁に外出する」が5.7%、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が4.8%、「仕事や学校で週に3～4日外出する」が4.3%、「人づきあいのためにときどき外出する」が1.9%。



- 81.3%は日常的に外出している。2番目～6番目の選択肢、仕事や学校で週に3～4日、遊び等、人づきあい、自分の趣味、コンビニなどは多くはないが、他者とのかわりの多寡は様々でも自宅から出ない状態ではない。
- 「自室からは出るが、家からは出ない」の0.5%(1名)が半年以上その状態であった場合は、いわゆるひきこもり、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にあたりと考えられる。深刻な「自室からほとんど出ない」は、今回調査ではゼロとなっている。

問 21 結婚についてどのように考えていますか。

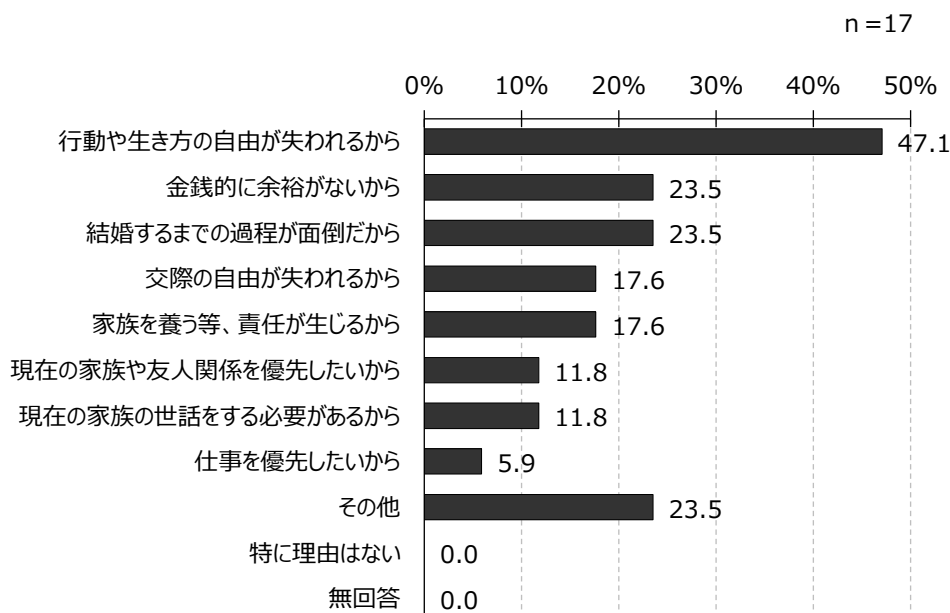
「いずれは結婚したい」が 33.3%と最も多く、「将来的にいい人がいれば結婚したい」が 26.9%、「結婚しなくてもかまわない」が 16.1%、「できるだけ早く結婚したい」が 9.7%、「答えたくない・答えない」が 7.5%。



問 21 で「結婚しなくてもかまわない」「一生結婚するつもりはない」人の理由

問 23 結婚しなくてもかまわない、一生結婚するつもりはないと思う理由は何ですか。(複数回答)

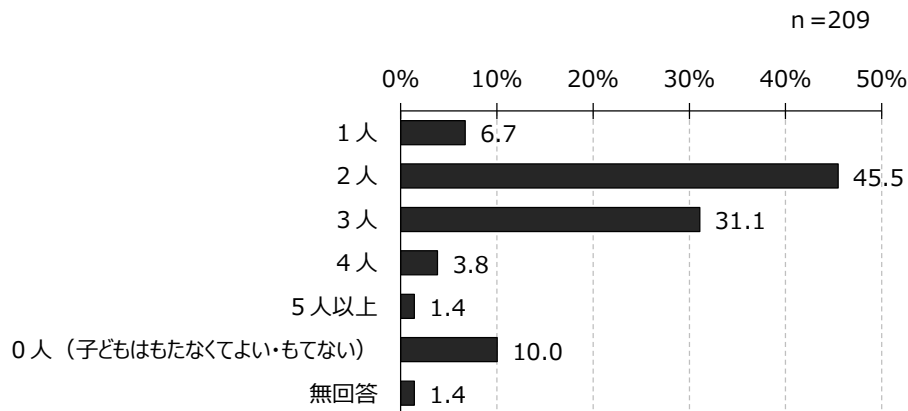
「行動や生き方の自由が失われるから」が 47.1%と最も多く、「金銭的に余裕がないから」、「結婚するまでの過程が面倒だから」「その他」が 23.5%、「交際が自由が失われるから」「家族を養う等、責任が生じるから」が 17.6%。



- 将来的には結婚するつもりと考えている未婚者の割合は 69.9%、一生結婚するつもりはないと考えている未婚者の割合は 2.2%となる。結婚しなくてもかまわない、一生結婚するつもりはない、という人の理由では、最多の「行動や生き方の自由が失われるから」、同率 2 位の「結婚するまでの過程が面倒だから」、同率 3 位の「交際の自由が失われるから」といった、結婚する積極的な動機がないことをうかがわせる回答が多い。

問 24 あなたは将来的に子どもを何人もちたいですか。

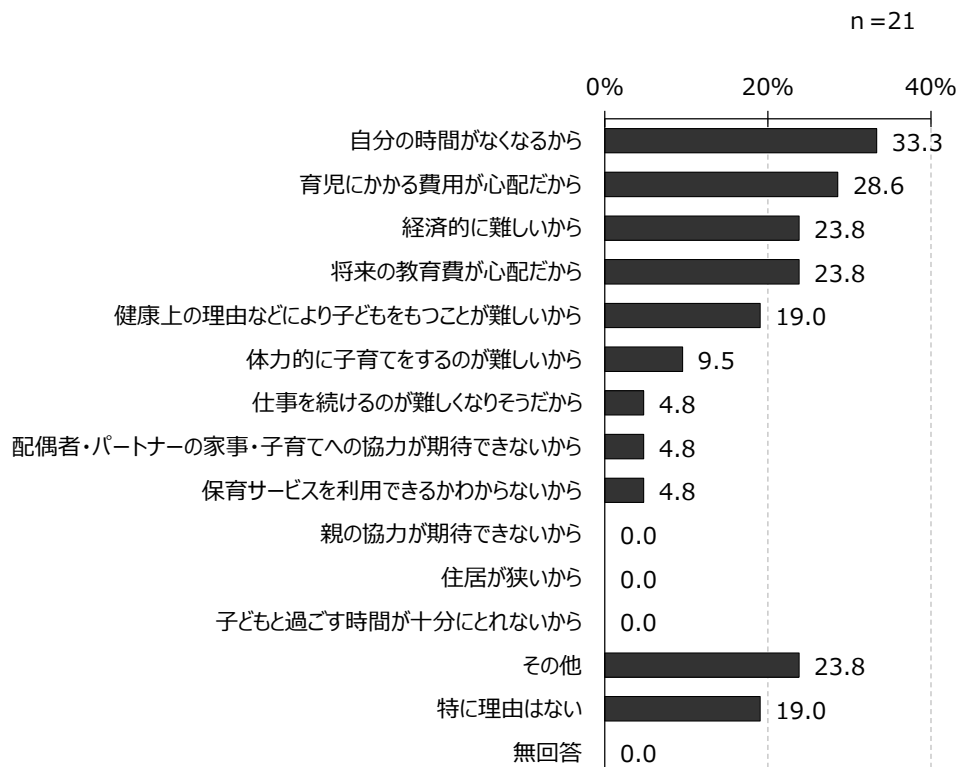
「2人」が45.5%と最も多く、「3人」が31.1%、「0人（子どもはもたなくてよい・もてない）」が10.0%、「1人」が6.7%、「4人」が3.8%。



問 24で「0人（子どもはもたなくてよい・もてない）」と答えた人の理由

問 26 子どもをもたない（もてないと思う）理由は何ですか。（複数回答）

「自分の時間がなくなるから」が33.3%と最も多く、「育児にかかる費用が心配だから」が28.6%、「経済的に難しいから」、「将来の教育費が心配だから」「その他」が23.8%。



- 子どもをもたない（もてないと思う）理由で最多の「自分の時間がなくなるから」は、未婚者の結婚観と似た傾向で、子どもをもつことが自己実現につながるような発想を持ち得ていないものと思われる。
- 「育児にかかる費用が心配だから」、「経済的に難しいから」、「将来の教育費が心配だから」といった、経済面の不安が理由となる回答が上位にあり、「仕事を続けるのが難しくなりそうだから」「保育サービスを利用できるかわからないから」（いずれも 4.8%）も経済的側面に関連する回答である。

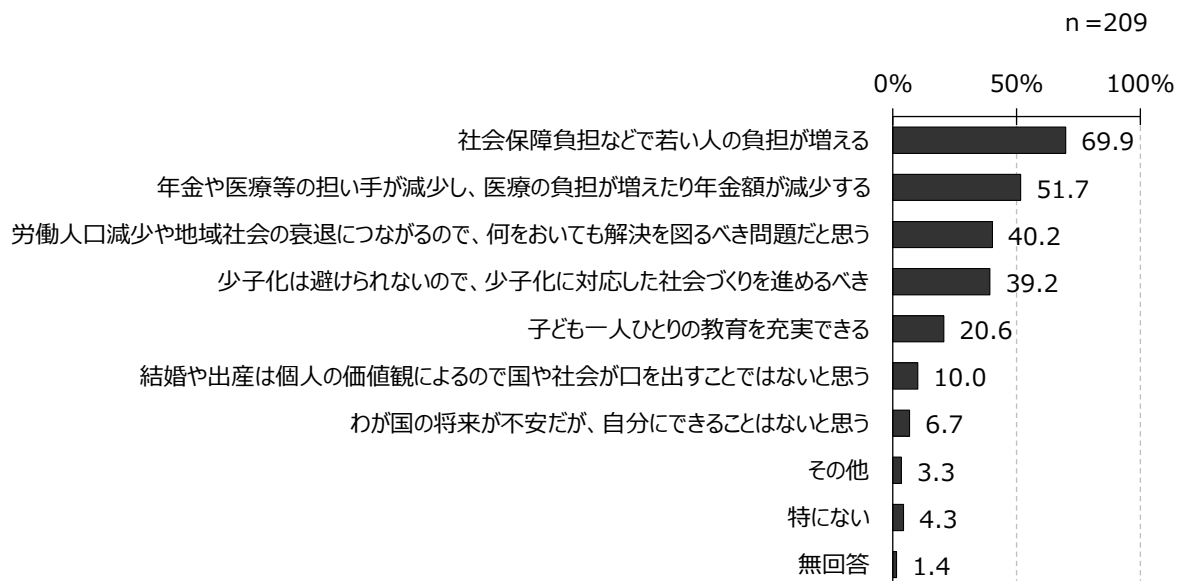
若者の、少子化に対する考え方

【若者】

問 29 わが国では現在、少子化の進行が大きな問題となっています。

次のような少子化に対する考え方のうち、あなたの考えに近いものを教えてください。（複数回答）

「社会保障負担などで若い人の負担が増える」が 69.9%と最も多く、「年金や医療等の担い手が減少し、医療の負担が増えたり年金額が減少する」が 51.7%、「労働人口減少や地域社会の衰退につながるので、何をおいても解決を図るべき問題だと思う」が 40.2%、「少子化は避けられないので、少子化に対応した社会づくりを進めるべき」が 39.2%、「子ども一人ひとりの教育を充実できる」が 20.6%。



- 上位 1、2 位の「社会保障負担などで若い人の負担が増える」、「年金や医療等の担い手が減少し、医療の負担が増えたり年金額が減少する」は、少子化により自分の世代の今や将来の生活が影響を受けることを懸念するものと捉えられる。社会全体の視点から危機感と対応の重要性を指摘する「労働人口減少や地域社会の衰退につながるので、何をおいても解決を図るべき問題だと思う」が 3 位となっている。
- 「少子化は避けられないので、少子化に対応した社会づくりを進めるべき」が 4 位にあることは、1、2 位の懸念を背景に持つ意見とも思われる。一方、自分にできることはないという、いわば「他人事」のように考える人は、今回回答した若者の中では 6.7%と多いわけではない。